参考資料４

第１８回「県民意識調査」の結果概要

１　調査テーマ　『ひょうごの環境と今後の再生可能エネルギー』

（第３次兵庫県環境基本計画の見直しを前に、県民の環境問題に対する意識や取り組みと、東日本大震災後、関心が高まっている節電への取り組みや再生可能エネルギーのあり方について調査する。）

２　調査対象　　県内に居住する満 20 歳以上の男女個人（外国人県民を含む）

３　対象数　　5,000 人

４　調査時期　　平成 24 年 9 月 7 日(金)～9 月 26 日(水)

５　回収数　　2,819（56.4%）

６　設問構成　　年次テーマ項目と毎年調査項目により構成

(1)年次テーマ項目

①ひょうごの環境に対する意識や取り組み

（環境問題への関心、周辺環境の満足度、環境保全活動、日常生活での取り組み、環境学習）

②再生可能エネルギーの利用

（認知度、設備の導入状況や課題、普及のための経済的負担、普及に向けた県の取り組み）

(2)毎年調査項目

① 生活満足度　② 生活向上感　③ 大地震発生の可能性　④ 地域活動への参加

⑤ 県政への関心　⑥ 県政への評価　⑦ 県民局の認知度　⑧ 県民情報番組の視聴

（参考：属性別回収率）

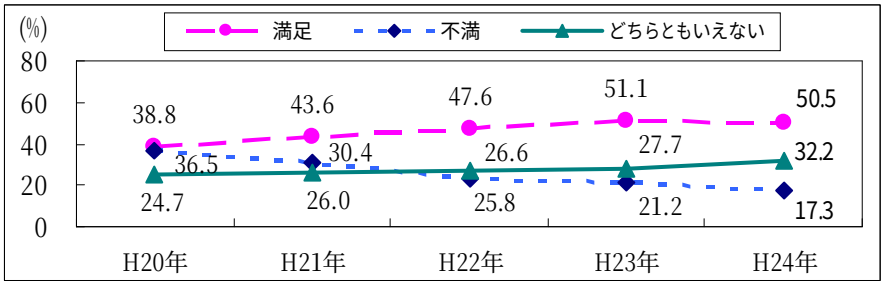
性別	男　性	1,156	48.6%
	女　性	1,604	61.2%
	不　明	59	―
年代別	20　代	214	34.3%
	30　代	337	43.3%
	40　代	460	58.1%
	50　代	472	61.7%
	60　代	619	67.7%
	70　代	445	67.2%
	80歳～	213	45.9%
	不　明	59	―

７　調査結果のポイント

※下表内の『 』は類似の選択肢を集約したものを表す。

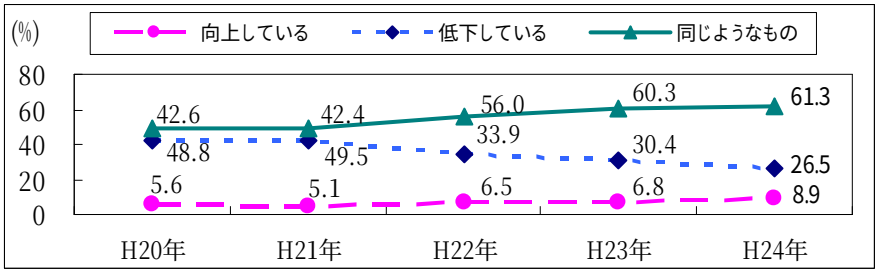
	項目	回答結果の概要	ポイント
年次テーマ項目	①ひょうごの環境	問１　特に関心を持っている環境問題　（２つまで選択） ①地球温暖化　H24:71.8% ← H19:80.9%　△9.1ﾎﾟｲﾝﾄ ②海洋や大気の汚染　H24:33.6% ← H19:26.1%　＋7.5ﾎﾟｲﾝﾄ ③黄砂や酸性雨などの影響　H24:21.5% ← H19:23.5%　△2.0ﾎﾟｲﾝﾄ ④オゾン層の破壊　H24:19.1% ← H19:24.5%　△5.4ﾎﾟｲﾝﾄ ⑤手つかずの自然の減少　H24:18.1% ← H19:16.8%　＋1.3ﾎﾟｲﾝﾄ ⑥生物種の減少や消失　H24:16.1% ← H19:10.6%　＋5.5ﾎﾟｲﾝﾄ ⑦砂漠の拡大　H24: 5.9% ← H19: 6.4%　△0.5ﾎﾟｲﾝﾄ	「地球温暖化」が７割を超え突出しており、「海洋や大気の汚染」が３割強で続く。 H19 比較では「地球温暖化」が、9.1 ﾎﾟｲﾝﾄ減少し、「海洋や大気の汚染」が 7.5 ﾎﾟｲﾝﾄ増加している。
		問２　住居周辺の環境　※『不満』の多い順 ①川・池・海などのきれいさ　H24:34.4% ← H19:36.5%　△2.1ﾎﾟｲﾝﾄ ②地域の美しさ・ゆとり（街路樹やごみ）　H24:28.1% ← H19:28.6%　△0.5ﾎﾟｲﾝﾄ ③静けさ（車や近隣からの騒音）　H24:26.7% ← H19:31.4%　△4.7ﾎﾟｲﾝﾄ ④空気のきれいさ（排気ガス等）　H24:20.9% ← H19:23.4%　△2.5ﾎﾟｲﾝﾄ ⑤身近な自然とのふれあい　H24:17.6% ← H19:16.5%　＋1.1ﾎﾟｲﾝﾄ ⑥におい（工場・飲食店等のにおい）　H24:14.9% ← H19:18.3%　△3.4ﾎﾟｲﾝﾄ	「川・池・海のきれいさ」「地域の美しさ・ゆとり」「静けさ」の不満が多いが、その割合は前回より減少している。

年次テーマ項目	① ひょうごの環境	問３　環境をよくする活動への関わり ※「既に参加している」の上位項目 ①マイバッグ持参など環境にやさしい買物運動　73.0% ②古紙・牛乳パックなどの回収活動　63.9% ③地域の美化・緑化活動　23.3% ※「参加したいと思う」の上位項目 ①川・池や海の環境保全活動　56.5% ②地域の美化・緑化活動　54.9% ③まちなみや史跡を守る活動　53.7% ④里山の手入れや森林の環境保全活動　53.3%	「環境にやさしい買物運動」など、家庭で日常的に取り組める活動は参加している割合が高い。一方、環境保全活動や美化・緑化活動などは、今後、参加したいとする割合が高い。
		問３－２　環境をよくする活動に参加したきっかけ　(該当全て選択) ※上位項目 ①地域での熱心な取り組み　49.3% ②県や市町の広報　37.7% ③新聞やテレビなどマスコミの報道　30.2% ④家族や知り合いの勧め　24.6%	「地域での熱心な取り組み」が約５割で最多で、身近な取り組みが活動への参加を促している。次いで「広報や報道」、「家族や知り合いの勧め」も多い。
		問４　生活の中での省エネルギー活動 ※「現在している」の上位項目 ①テレビをつけっぱなしにしない　81.2% ②冷暖房を適温にする　79.2% ③冷蔵庫の適正使用　76.4% （・クールスポットに出掛ける　30.0%） ※「これからしたい」の上位項目 ①ＬＥＤ電球の使用　65.6% ②低公害車の利用　56.8% ③クールスポットに出掛ける　52.9%	省エネ活動としては「テレビをつけっぱなしにしない」「冷暖房の適温」が約８割で日常的に取り組める活動は割合が高い。夏の節電対策の一環として実施した公共施設等「クールスポット」の利用は３割。
		問５　環境学習で重視すること　（２つまで選択）※上位項目 ①環境問題をわかりやすく理解できる　**H24:38.6%** ← H19:34.5%　＋4.1ポイント ②実践している人達の取り組みを知る　**H24:29.0%** ← H19:25.0%　＋4.0ポイント ③大人や子供、地域団体などが交流　**H24:27.7%** ← H19:23.5%　＋4.2ポイント 問６　県が環境学習を推進する上で重要なこと　（２つまで選択）　※上位項目 ①学校等における学習機会の提供　**H24:38.6%** ← H19:39.4%　△0.8ポイント ②情報提供や相談体制の充実　**H24:29.9%** ← H19:29.3%　＋0.6ポイント ③住民やＮＰＯ、事業者等の連携の強化　**H24:29.4%** ← H19:31.7%　△2.3ポイント	「環境問題をわかりやすく理解できること」が重視されており、県に対しては「学習機会の提供」を求めている。
	② 再生可能エネルギーの利用	問７　再生可能エネルギーの認知度 ※「知っている」＋「聞いたことがある」の多い順 ①太陽光発電　97.0%　⑤バイオマス利用　59.2% ②風力発電　94.1%　⑥小水力発電　57.5% ③太陽熱利用　88.9%　⑦潮流発電　53.2% ④地熱発電　75.3%	「知っている」と「聞いたことがある」を合わせると「太陽光発電」はほぼ全ての人が認知している。最も少ない「潮流発電」でも５割を超える。
		問８　家庭や地域における再生可能エネルギー等設備の導入状況 ※「既に導入している」の上位項目 ①ヒートポンプ給湯器（エコキュート）　12.4% ②太陽光発電　6.2% ③太陽熱温水器　5.1% ※「将来的に導入したい」の上位項目 ①太陽光発電　51.5% ②家庭用蓄電池　49.5% ③家庭用燃料電池（エネファーム）　36.5%	導入率では「ヒートポンプ給湯器」が１割強。将来的に導入したい設備は、「太陽光発電」と「家庭用蓄電池」となっている。

<table>
<tr><td rowspan="3">年次テーマ項目</td><td rowspan="3">②
再生可能エネルギーの利用</td><td>問９　家庭で再生可能エネルギー等を導入する際の課題や問題点
（３つまで選択）※上位項目
①設備の価格が高い　81.2%
②補助金等の支援制度がない　35.1%
③設置する場所がない　32.2%</td><td>「設備の価格が高い」が８割を超え、突出して多くなっている。</td></tr>
<tr><td>問10　再生可能エネルギーを普及させるための経済的負担
※『負担が増えてもよい』　49.9%
・１割増まで　35.2%　・３割増まで　2.8%
・２割増まで　11.3%　・３割増以上　0.6%
・負担できない　26.0%
・わからない　20.9%</td><td>約半数が電気料金の「負担が増えてもよい」としている。その負担の割合は、電気料金月額あたり「１割増まで」が最も多い。</td></tr>
<tr><td>問11　再生可能エネルギーの普及促進等を図るために県が進めるべき取り組み
（２つまで選択）※上位項目
①設備導入時の補助・融資　50.8%
②公共施設等における導入　47.2%
③新技術・新製品の開発に対する支援　25.2%</td><td>「設備導入時の補助・融資」が５割を超え最も多く、次いで「公共施設等における導入」となっている。</td></tr>
<tr><td rowspan="4">毎年調査項目</td><td rowspan="2">①
生活満足感</td><td>問12　今の生活全般での満足度
 

◆地域別の状況（生活満足度が高い順）
①阪神北(57.2%)　②北播磨(56.5%)　③中播磨(52.1%)　④神　戸(51.0%)
⑤西播磨(50.5%)　⑥丹　波(49.5%)　⑥東播磨(49.5%)　⑧阪神南(45.1%)
⑨但　馬(45.0%)　⑩淡　路(44.6%)</td><td>『満足』は増加傾向にあったが微減。『不満』は減少している一方で、「どちらともいえない」が増加し、３割を超え過去最多。

阪神北、北播磨、中播磨など５地域で『満足』が５割を上回る。</td></tr>
<tr><td>問13　今の生活の個別側面での満足度　※上位項目
・『満足』
①家族との関係　72.9%
②住んでいる地域の住み心地　66.4%
③家族の健康　59.1%
④住居　58.8%
⑤知人や近所の人との関係　57.2%
・『不満』
①貯蓄などの金融資産　47.6%
②所得・収入　42.1%
③時間のゆとり　25.8%
④趣味やﾚｸﾘｴｰｼｮﾝへの取組　22.8%
⑤住居　18.7%</td><td>『満足』は「家族との関係」「地域の住み心地」が多い。

『不満』は「貯蓄などの金融資産」「所得・収入」が多い。</td></tr>
<tr><td>②
生活向上感</td><td>問14　去年と比べた生活の向上感
 
</td><td>「低下している」は減少傾向で、「向上している」は微増。</td></tr>
<tr><td>③
大震災発生の可能性</td><td>問15　大地震発生の可能性
・『起こると思う』　H24:51.4% ← H23:58.0% ← H22:39.8%
・『起こらないと思う』　H24:24.8% ← H23:25.5% ← H22:34.5%</td><td>前回急増した『起こると思う』は若干減少したが、依然として５割を超える。</td></tr>
</table>

毎年調査項目	④ 地域活動への参加	問16　地域活動への参加状況 ・『参加している』　55.1% ・『参加していない』　40.7% ◆地域別の状況（『参加している』の多い順） ①西播磨(76.8%)　②丹　波(75.6%)　③北播磨(71.6%)　④淡　路(71.0%) ⑤中播磨(70.6%)　⑥但　馬(70.3%)　⑦東播磨(59.9%)　⑧阪神北(56.5%) ⑨神　戸(43.6%)　⑩阪神南(42.2%)	『参加している』が５割半ばで、半数以上が何らかの地域活動に参加している。 地域別では、西播磨と丹波が７割半ばに達しており、１０地域中６地域で７割を上回っている。
	⑤ 県政への関心	問17　県政への関心 ・『関心がある』　H24:68.0% ← H23:74.0%　← H22:65.7% ・『関心がない』　H24:29.8% ← H23:24.8%　← H22:31.6%	『関心がある』は前年より6.0ポイント減少。『関心がない』は前年より5.0ポイント増加した。
	⑥ 県政への評価	問18　県政への評価　※上位項目 ・『やっている』 ①震災からの復興対策　H24:51.1% ← H23:45.7%　＋5.4ポイント ②県政の広報・広聴活動　H24:36.4% ← H23:37.4%　△1.0ポイント ③交通網の整備　H24:36.0% ← H23:38.5%　△2.5ポイント ④防災対策の充実　H24:35.6% ← H23:33.5%　＋2.1ポイント ⑤芸術文化の振興　H24:32.0% ← H23:32.5%　△0.5ポイント ・『努力が必要』 ①雇用の安定と職業能力開発 H24:43.3% ← H23:50.5%　△7.2ポイント ②医療施設の充実　H24:34.4% ← H23:40.3%　△5.9ポイント ③福祉対策　H24:33.7% ← H23:35.8%　△2.1ポイント ④中小企業の育成　H24:33.6% ← H23:39.0%　△5.4ポイント ⑤学校教育の充実　H24:29.2% ← H23:32.0%　△2.8ポイント	『やっている』は「震災からの復興」や「交通網の整備」などで多い。 『努力が必要』は「雇用の安定等」や「医療施設の充実」などで多いが、前年と比較するといずれも減少している。
	⑦ 県民局の認知度	問19　県民局の認知度 ・『知っている』　H24:50.0% ← H23:49.9%　＋0.1ポイント ・『知らない』　H24:47.2% ← H23:48.3%　△1.1ポイント ◆ 地域別の状況　※『知っている』が多い順 ①淡　路(78.1%)　②但　馬(74.7%)　③丹　波(72.6%)　④西播磨(63.8%) ⑤北播磨(61.6%)　⑥中播磨(54.3%)　⑦東播磨(51.9%)　⑧神　戸(47.1%) ⑨阪神北(42.0%)　⑩阪神南(38.5%)	県民局の認知度は『知っている』が５割で前年から微増。 地域別では農村部で高く、都市部で低い傾向。
	⑧ 県民情報番組の視聴	問20　県民情報番組「ひょうごワイワイ」の視聴状況 ・『見たことがある』　20.0% ・『見たことがない』　77.3% 「知っているが見たことがない　17.9% 「知らない」　59.4% ◆ 地域別の状況　※『見たことがある』が多い順 ①丹　波(28.1%)　②但　馬(27.5%)　③西播磨(27.3%)　④淡　路(26.8%) ⑤北播磨(23.6%)　⑥中播磨(22.3%)　⑦東播磨(20.9%)　⑧神　戸(19.1%) ⑨阪神南(17.6%)　⑩阪神北(14.1%)	『見たことがある』は２割である。 地域別では丹波の３割弱が最多で概ね農村部で高いが、都市部でも１割半ば～２割となっている。

［問い合わせ先］企画県民部広報課広聴室(TEL078-362-3021)

第１８回県民意識調査調査結果（ダイジェスト版）

『ひょうごの環境と今後の再生可能エネルギー』

◆調査結果の特色

１　『ひょうごの環境』に関することについて（Ｐ５）

【環境問題・周辺環境】

- **特に関心を持っている環境問題**では、「地球温暖化」が７割を超え突出しており、次いで「海洋や大気の汚染」が３割強、「黄砂や酸性雨などの影響」、「オゾン層の破壊」、「手つかずの自然の減少」が２割前後となっている。
- **住居周辺の環境**については、「不満」と「やや不満」を合わせた『不満』で、〔川・池・海のきれいさ〕、〔地域の美しさ・ゆとり〕、〔静けさ〕の割合が高い。

【環境をよくする活動】

- **環境をよくする活動への関わり**では、〔環境にやさしい買物運動〕など、家庭で日常的に取り組める活動については「既に参加している」割合が高い。

  一方、環境保全活動や美化・緑化活動などは、「既に参加している」割合は低いが、「参加したいと思う」割合が高い。
- **環境をよくする活動への参加のきっかけ**は、「地域での熱心な取り組み」が最も高く約５割で、身近な取り組みが環境をよくする活動への参加を促している。次いで「県や市町の広報」、「新聞やテレビなどマスコミでの報道」、「家族や知り合いの勧め」の順で高くなっている。

【省エネ、省資源・リサイクル活動】

- **生活の中での省エネルギー活動**として「現在している」ことは、〔テレビをつけっぱなしにしない〕、〔冷暖房を適温にする〕、〔冷蔵庫の適正使用〕、〔家電製品のコンセントをぬく〕の割合が６割半ば～８割と高く、家庭で日常的に取り組める活動は割合が高くなっている。

  また、夏の節電対策としての〔商業施設や公共施設など（クールスポット）に出掛ける〕は３割の実施であった。
- **生活の中での省資源・リサイクル活動**として「現在している」ことは、〔紙類を分別して業者に出す〕、〔マイバッグの持参〕、〔容器の中身を詰め替えて使用〕の割合が７～８割と高くなっている。

【環境学習】

- **環境学習で重視すること**は、「わかりやすく理解できること」が４割弱で最も多く、「活動を実践している人達の取り組みを知る」、「大人や子供、地域団体などが交流できる」が約３割となっている。
- **県が環境学習を推進する上で特に重要と思われること**は、「学校や幼稚園・保育所における学習機会の充実」が約４割で最も多く、「情報提供や相談体制の充実」、「住民やＮＰＯ、学校、事業者、市町などの連携の強化」が約３割となっている。

２　『再生可能エネルギーの利用』に関することについて（Ｐ１７）

- **再生可能エネルギーの認知度**について、「知っている」と「聞いたことがある」を合わせると、〔太陽光発電〕はほぼ全ての人が認知しており、〔風力発電〕、〔太陽熱利用〕もそれぞれ９割前後の認知度となっている。また、最も少ない〔潮流発電〕でも５割を超える。
- **家庭や地域における再生可能エネルギー等設備の導入状況**について、「既に導入している」設備は、〔ヒートポンプ給湯器〕が１割を超え最も多く、次いで〔太陽光発電〕、〔太陽熱温水器〕となっている。
- **家庭で再生可能エネルギー等を導入する際の課題や問題点**は、「設備の価格が高い」が８割を超え、突出して多くなっている。次いで「補助金等の支援制度がない」「設置する場所がない」が３割台となっている。
- **再生可能エネルギーを普及させるための経済的負担**については、約半数の人が電気料金の『負担が増えても良い』としている。その負担の割合は、家庭の電気料金で月額あたり「１割増まで」が３割半ばで最も多くなっている。
- **再生可能エネルギーの普及促進等を図るために県が進めるべき取り組み**としては、「設備導入時の補助・融資」が５割を超え最も多く、次いで「公共施設等における導入」が５割弱となっている。

３　毎年調査項目（Ｐ２３）

①　生活満足度

- **今の生活全般での満足度**では、「満足」と「まあ満足」を合わせた『満足』が、「不満」と「やや不満」を合わせた『不満』を 33.2 ﾎﾟｲﾝﾄ上回っている。

  経年比較では、『満足』は３年連続増加傾向であったが、今回、前年から 0.6 ﾎﾟｲﾝﾄ減少した。『不満』については前年より 3.9 ﾎﾟｲﾝﾄ減少し、３年連続で過去最低を更新している。
- **個別側面の満足度**では、『満足』は、〔家族との関係〕が７割を超え最も多く、〔地域の住み心地〕、〔家族の健康〕、〔住居〕の順で続いており、１３項目中６項目で『満足』が５割を超えている。

  『不満』は、〔貯蓄などの金融資産〕、〔所得・収入〕が４割台で多く、いずれも『満足』を上回っている。

②　去年と比べた生活向上感

- 「同じようなもの」が６割と最も多く、「低下している」は２割半ば、「向上している」は１割を下回る。

  前年度調査と比較すると、「向上している」は 2.1 ﾎﾟｲﾝﾄ増加し、「低下している」は 3.9 ﾎﾟｲﾝﾄ減少している。

③　大地震発生の可能性

●　「起こると思う」と「可能性は高いと思う」を合わせた『起こると思う』は５割強で、「絶対起こらないと思う」、「可能性は低いと思う」を合わせた『起こらないと思う』は２割台半ばとなっている。

　経年比較では、昨年は、東日本大震災の発生を受け、減少傾向から一転して『起こると思う』が６割弱に達したが、今回は前年より 6.6ﾎﾟｲﾝﾄ減少した。

　一方で、『起こらないと思う』は、前年より 0.7ﾎﾟｲﾝﾄ減少している。

④　地域活動への参加状況

●　「現在参加している」と「過去に参加したことがある」を合わせた『参加している』が５割半ばとなっており、半数以上の人が何らかの地域活動に参加したことがある。

⑤　県政への関心

●　「大変関心がある」と「多少関心がある」を合わせた『関心がある』が約７割となっている。

　経年比較では、『関心がある』は過去２番目に高い割合であった前年より 6.0ﾎﾟｲﾝﾄ減少、一方の『関心がない』は前年より 5.0ﾎﾟｲﾝﾄ増加している。

⑥　県政への評価

●　「よくやっている」と「まあまあやっている」を合わせた『やっている』は〔阪神・淡路大震災からの復興対策〕が最も多く、〔県政の広報・広聴活動〕、〔交通網の整備〕、〔防災対策の充実〕と続いている。

●　「もう少し努力が必要」と「もっと努力が必要」を合わせた『努力が必要』は、〔雇用の安定と職業能力の開発〕が最も多く、〔病気の予防や病院などの医療施設の充実〕、〔お年寄りや障害者が安心して暮らせる福祉対策〕、〔県内中小企業の育成〕と続いているが、前年と比較するといずれも割合は減少している。

●　１８項目中、半数の９項目で『努力が必要』が『やっている』を上回っている。

⑦　県民局の認知度

- 「よく知っており、行ったこともある」、「知っているが行ったことはない」、「事務所なら知っている」を合わせた『知っている』が５割となっている。経年比較では、県民局の認知度はわずかながら増加傾向にある。

⑧　県民情報番組「ひょうごワイワイ」の視聴

- 「よく見る」と「たまに見る」を合わせた『見たことがある』は２割となっている。
- 一方で「知らない」とする割合は、阪神北が７割強、阪神南が６割強となっている。

※　各数値（%）は 0.1%未満を四捨五入しているため、内訳の合計が計に一致しないことがある。（以下同じ）

１　『ひょうごの環境』に関することについて

問１　特に関心を持っている環境問題

問１

現在、地球規模に及ぶさまざまな環境問題が生じています。次の中から、あなたが特に関心をもっていることを２つまで選んで番号に○をつけてください。

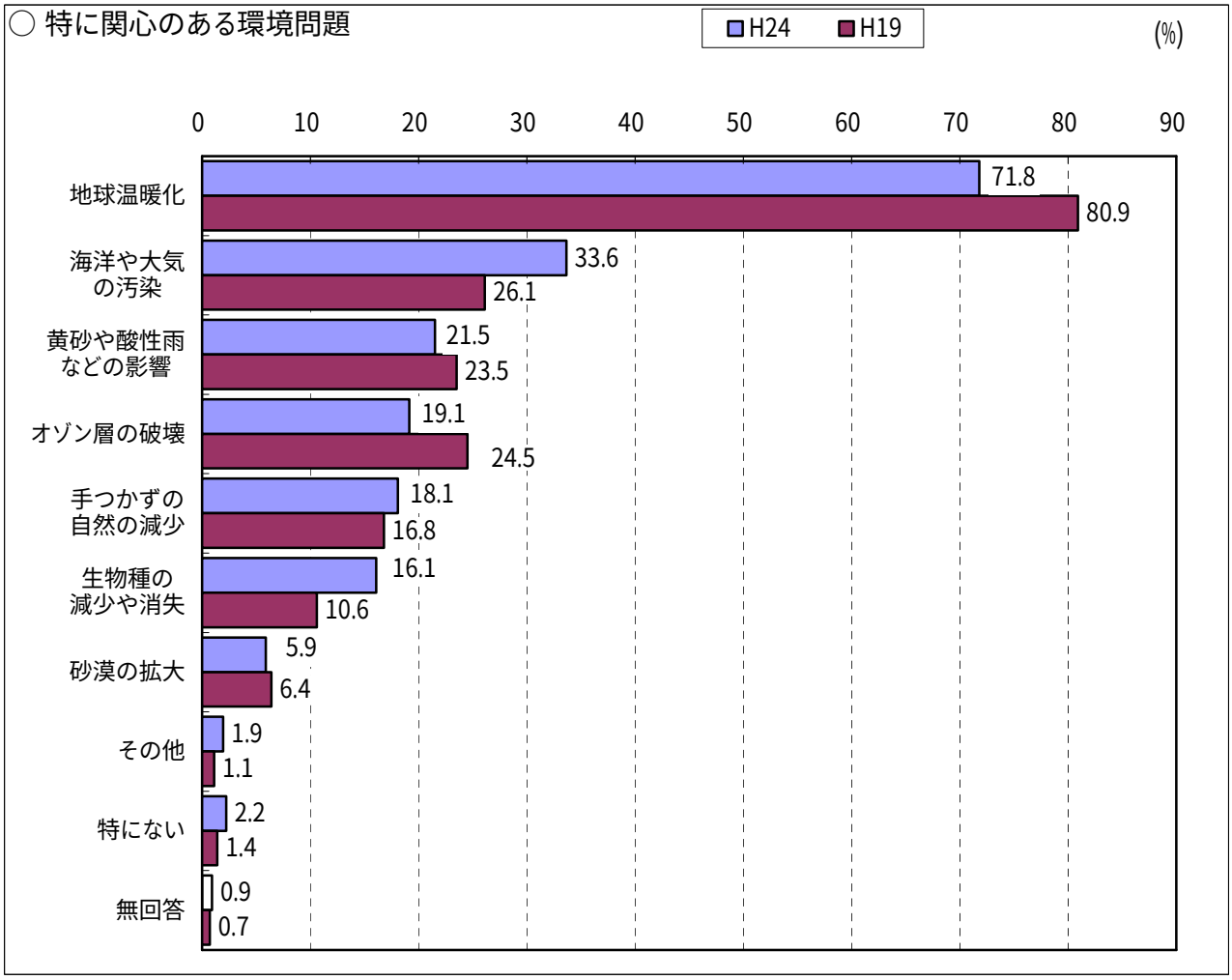
１　手つかずの自然の減少
２　砂漠の拡大
３　生物種の減少や消失
４　海洋や大気の汚染
５　黄砂や酸性雨などの影響
６　オゾン層の破壊
７　地球温暖化
８　その他
９　特にない

【全　県】

●　「地球温暖化」が７割を超え突出している。次いで「海洋や大気の汚染」が３割強、「黄砂や酸性雨などの影響」、「オゾン層の破壊」、「手つかずの自然の減少」が２割前後となっている。

【Ｈ１９調査との比較】

●　前回調査と比較すると、最も関心が高いのは「地球温暖化」で同じであるが、H19 に比べ 9.1 ﾎﾟｲﾝﾄ減少している。一方、「海洋や大気の汚染」では H19 に比べ 7.5 ﾎﾟｲﾝﾄ増加している。



問２　住居周辺の環境の満足度

問２

あなたは、お住まいの周辺の環境にどの程度満足していますか。次のア～カについて、それぞれの項目ごとに１つ選んで番号に○をつけてください。

ア　空気のきれいさ（粉じん、排気ガスなど）
イ　川・池・海などのきれいさ（汚れ、濁り、水辺のごみなど）
ウ　におい（工場、飲食店等のにおいなど）
エ　静けさ（車、鉄道、近隣からの騒音など）
オ　身近な自然とのふれあい（田畑や公園の緑、動植物など）
カ　地域の美しさ・ゆとり（街路樹、ごみ、違法駐車など）

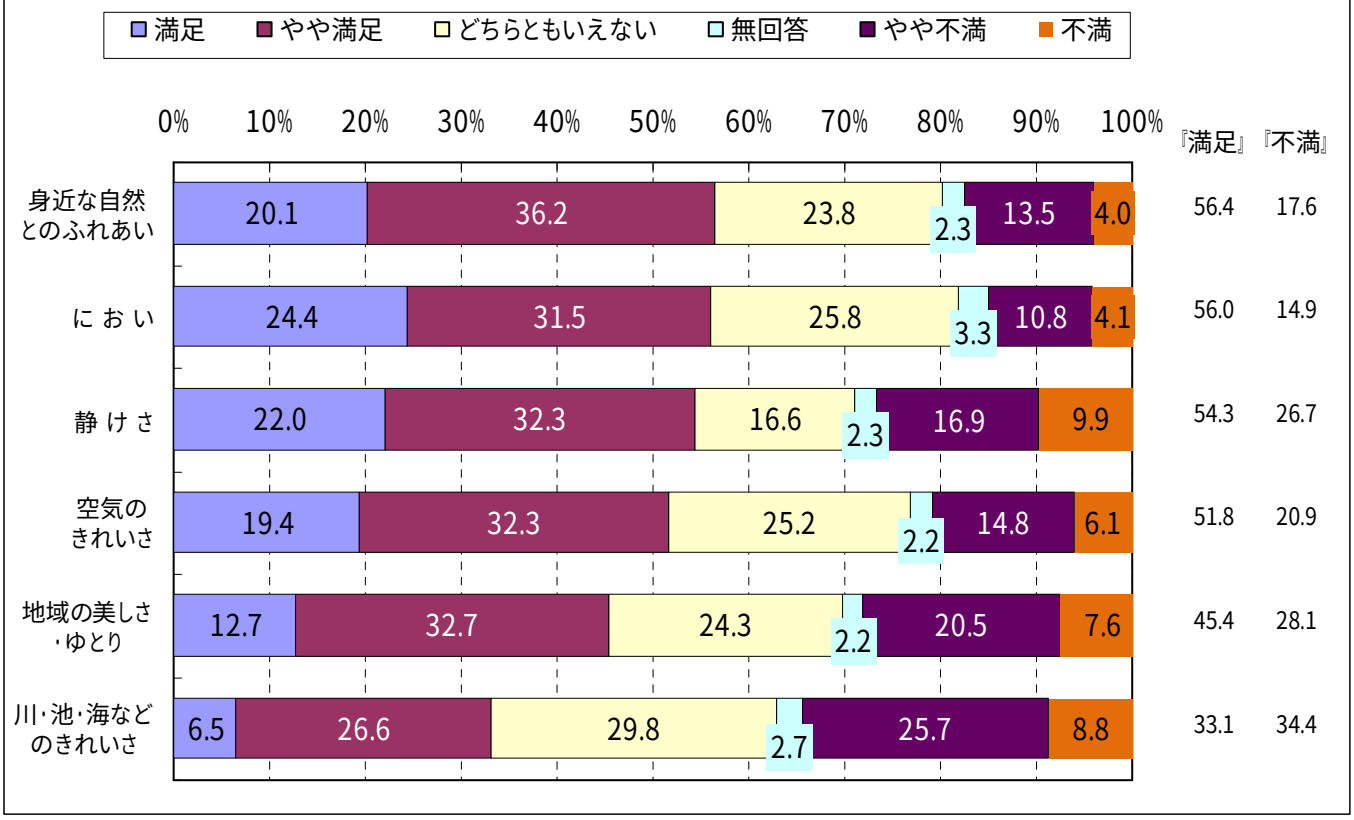
１　満足　　４　やや不満
２　やや満足　　５　不満
３　どちらともいえない

【全　県】

● ア～カまでの６項目のうち、「満足」と「やや満足」を合わせた『満足』では、〔身近な自然とのふれあい〕、〔におい〕、〔静けさ〕、〔空気のきれいさ〕が５割を超え満足度が高い。

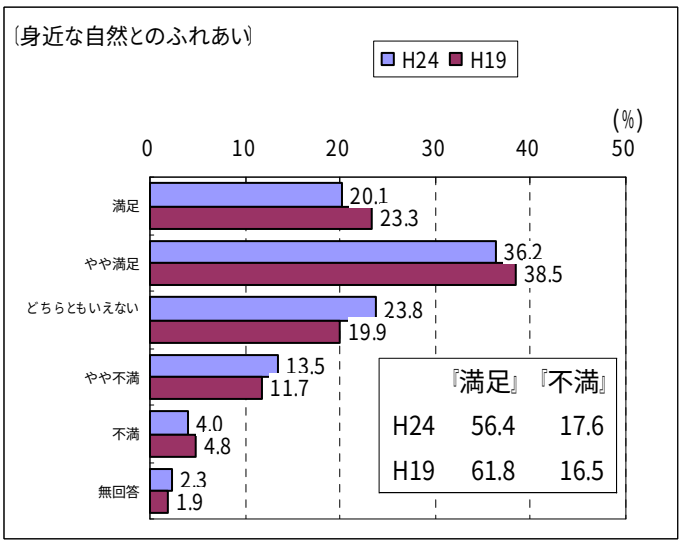
● 一方、「不満」と「やや不満」を合わせた『不満』では、〔川・池・海のきれいさ〕、〔地域の美しさ・ゆとり〕、〔静けさ〕の不満度が高い。

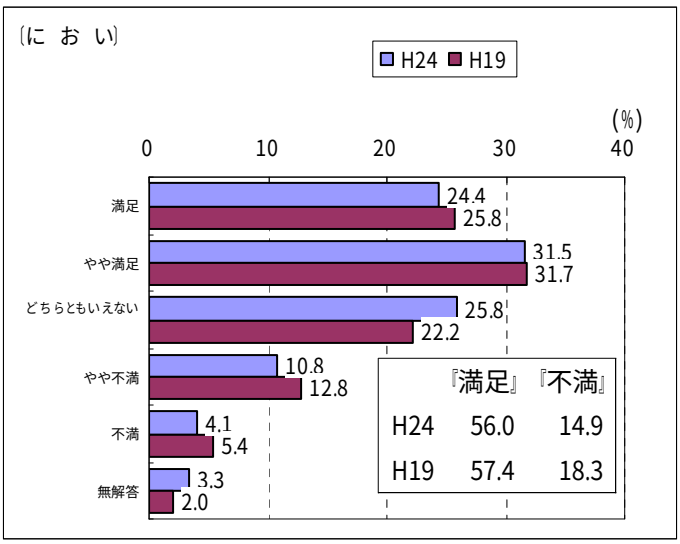
○ 住居周辺の環境の満足度

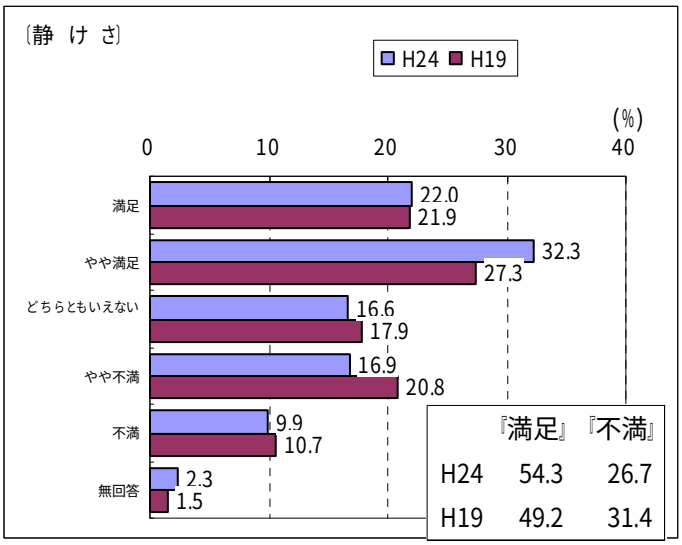


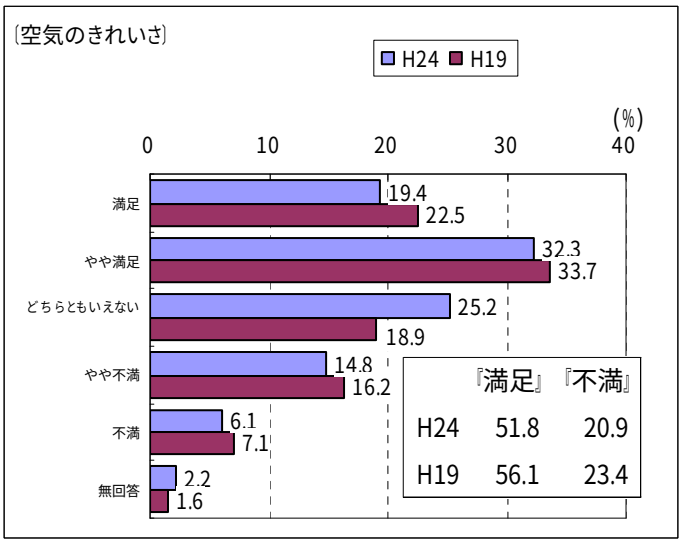
【Ｈ１９調査との比較】

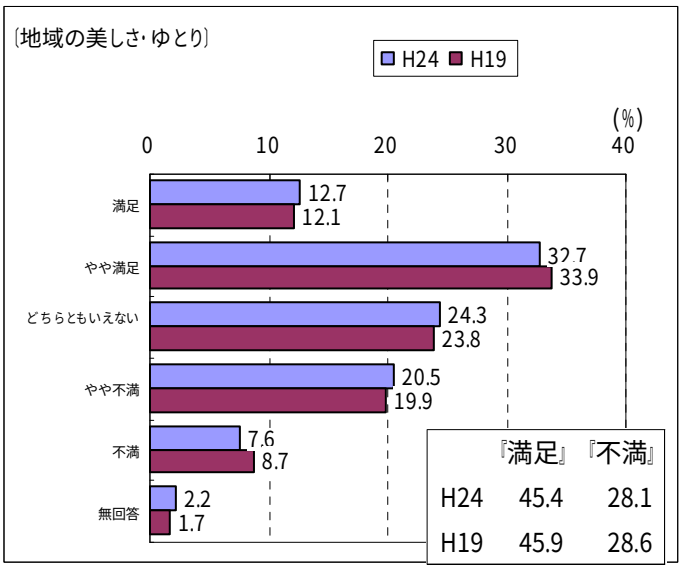
● 項目別にH19 調査と比較すると、『満足』の割合が前回を上回っているのは〔静けさ〕のみ（5.1ﾎﾟｲﾝﾄ増加）となっている。また、『不満』の割合は〔身近な自然とのふれあい〕を除き減少している。

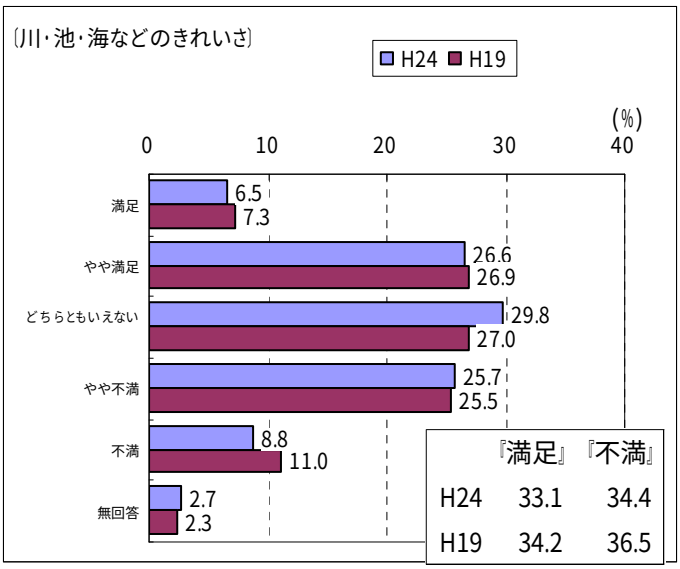




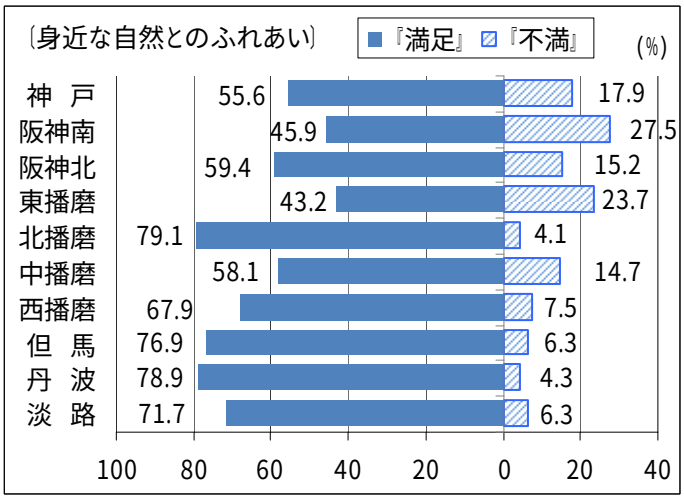


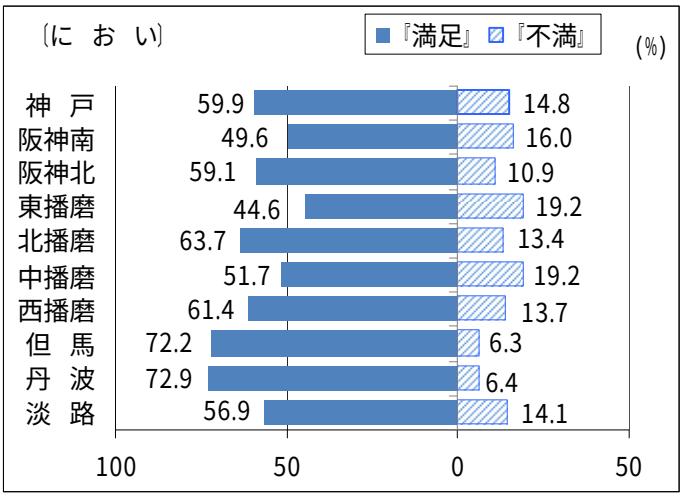


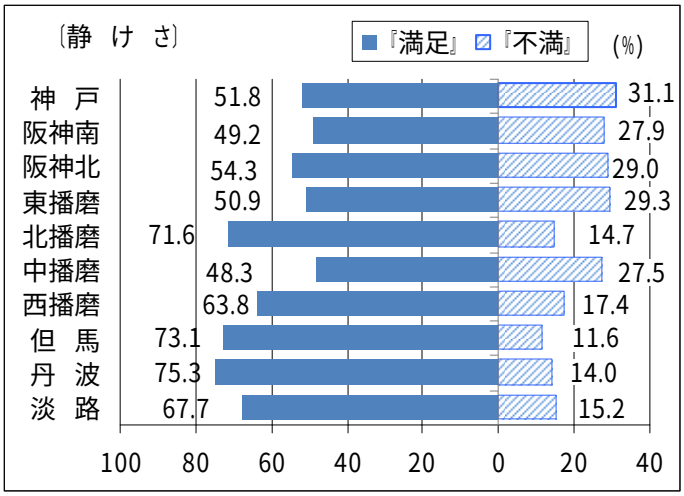


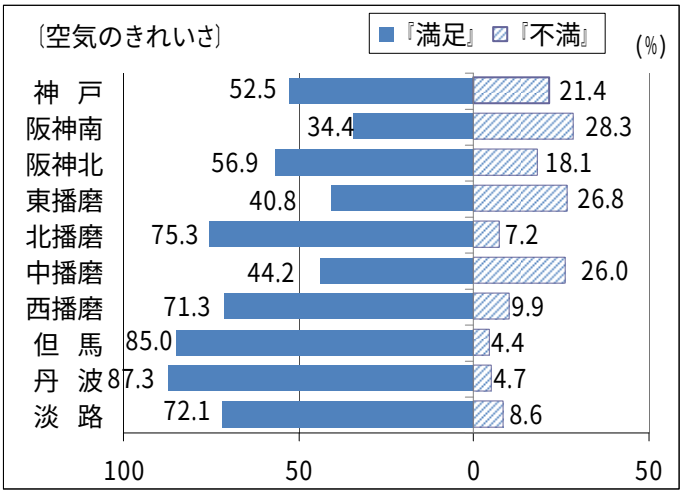


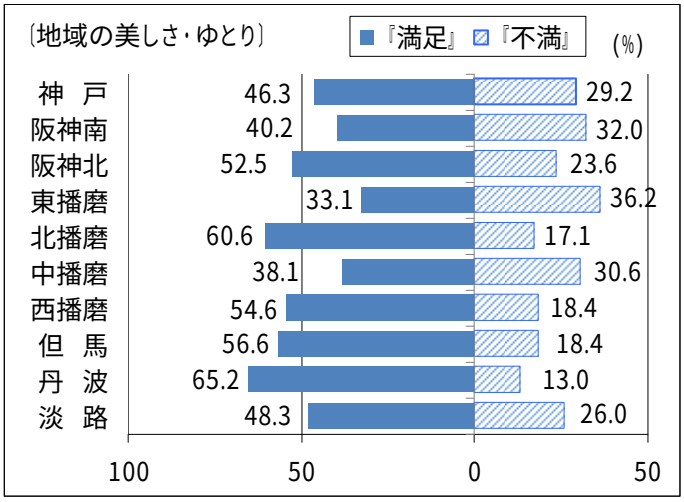
【地域別】

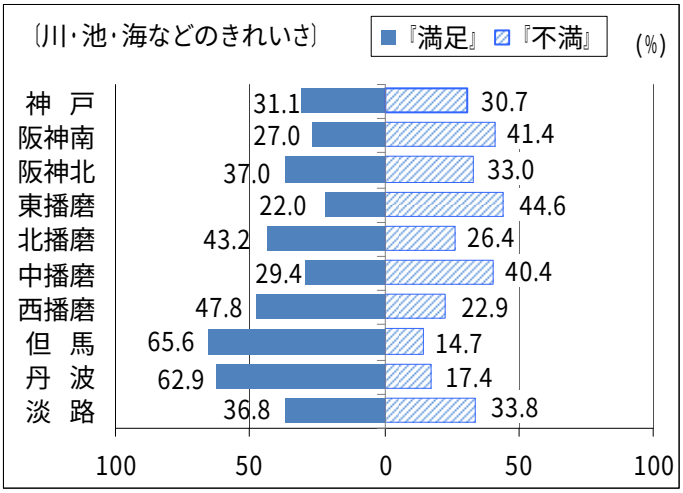

〔身近な自然とのふれあい〕
『満足』 『不満』
(%)
神 戸 55.6 17.9
阪神南 45.9 27.5
阪神北 59.4 15.2
東播磨 43.2 23.7
北播磨 79.1 4.1
中播磨 58.1 14.7
西播磨 67.9 7.5
但 馬 76.9 6.3
丹 波 78.9 4.3
淡 路 71.7 6.3
100 80 60 40 20 0 20 40


〔に お い〕
『満足』 『不満』
(%)
神 戸 59.9 14.8
阪神南 49.6 16.0
阪神北 59.1 10.9
東播磨 44.6 19.2
北播磨 63.7 13.4
中播磨 51.7 19.2
西播磨 61.4 13.7
但 馬 72.2 6.3
丹 波 72.9 6.4
淡 路 56.9 14.1
100 50 0 50


〔静 け さ〕
『満足』 『不満』
(%)
神 戸 51.8 31.1
阪神南 49.2 27.9
阪神北 54.3 29.0
東播磨 50.9 29.3
北播磨 71.6 14.7
中播磨 48.3 27.5
西播磨 63.8 17.4
但 馬 73.1 11.6
丹 波 75.3 14.0
淡 路 67.7 15.2
100 80 60 40 20 0 20 40


〔空気のきれいさ〕
『満足』 『不満』
(%)
神 戸 52.5 21.4
阪神南 34.4 28.3
阪神北 56.9 18.1
東播磨 40.8 26.8
北播磨 75.3 7.2
中播磨 44.2 26.0
西播磨 71.3 9.9
但 馬 85.0 4.4
丹 波 87.3 4.7
淡 路 72.1 8.6
100 50 0 50


〔地域の美しさ・ゆとり〕
『満足』 『不満』
(%)
神 戸 46.3 29.2
阪神南 40.2 32.0
阪神北 52.5 23.6
東播磨 33.1 36.2
北播磨 60.6 17.1
中播磨 38.1 30.6
西播磨 54.6 18.4
但 馬 56.6 18.4
丹 波 65.2 13.0
淡 路 48.3 26.0
100 50 0 50


〔川・池・海などのきれいさ〕
『満足』 『不満』
(%)
神 戸 31.1 30.7
阪神南 27.0 41.4
阪神北 37.0 33.0
東播磨 22.0 44.6
北播磨 43.2 26.4
中播磨 29.4 40.4
西播磨 47.8 22.9
但 馬 65.6 14.7
丹 波 62.9 17.4
淡 路 36.8 33.8
100 50 0 50 100

問３　環境をよくする活動への関わり

問３
リサイクルや河川の清掃、緑化、自然保護など、環境をよりよくするための活動について、あなたはどのように関わっていますか。次のア～ケについて、それぞれの項目ごとに１つ選んで番号に○をつけてください。

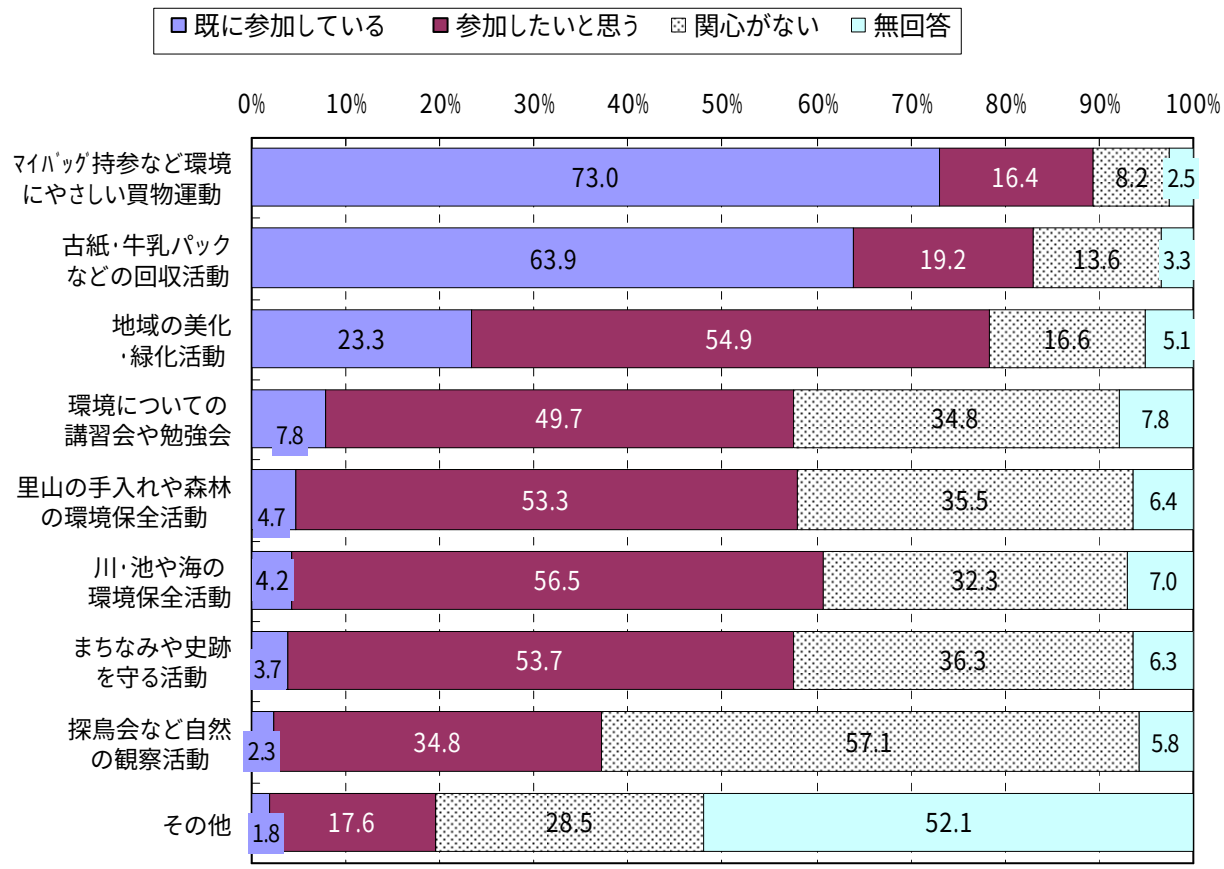
ア　環境についての講習会や勉強会
イ　古紙・牛乳パックなどの回収活動
ウ　マイバッグ持参など環境にやさしい買物運動
エ　探鳥会など自然の観察活動
オ　まちなみや史跡を守る活動
カ　地域の美化・緑化活動
キ　里山の手入れや森林の環境保全活動
ク　川・池や海（藻場、干潟を含む）の環境保全活動
ケ　その他

１ 既に参加している　　２ 参加したいと思う　　３ 関心がない

【全　県】

● 〔環境にやさしい買物運動〕、〔古紙・牛乳パックなどの回収活動〕など、家族で日常的に取り組める活動については「既に参加している」割合が高い。一方、環境保全活動や美化・緑化活動などは、、「既に参加している」割合は低いが、「参加したいと思う」割合が高い。

○ 環境をよくする活動への関わり



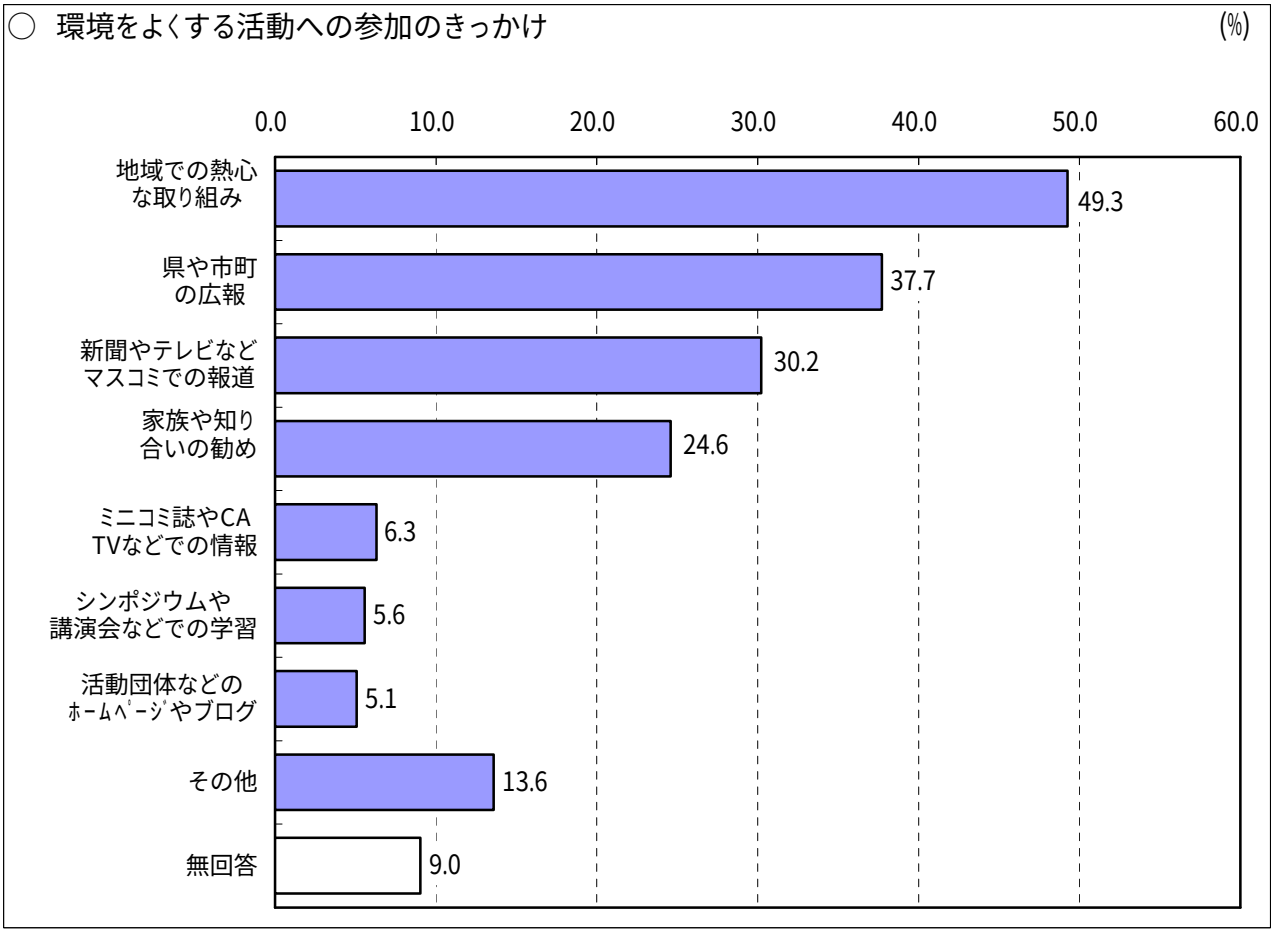
問３－２　環境をよくする活動への参加のきっかけ（問３の１，２選択者対象）

問３－２　【問３の各項目で１又は２を選択された方にお聞きします】
それらの活動にあなたが参加する（した）きっかけはどのようなことですか。次の中から該当するものを全て選んで番号に○をつけてください。

1　家族や知り合いの勧め
2　地域での熱心な取り組み
3　活動団体などのホームページやブログ
4　シンポジウムや講演会などでの学習
5　県や市町の広報
6　ミニコミ誌や CATV などでの情報
7　新聞やテレビなどマスコミでの報道
8　その他

【全　県】

● 「地域での熱心な取り組み」が最も高く約５割となっており、身近な取り組みが環境をよくする活動への参加を促している。次いで「県や市町の広報」、「新聞やテレビなどマスコミでの報道」、「家族や知り合いの勧め」の順で高くなっている。



問４　普段の生活の中での省エネルギーや省資源・リサイクル活動

問４

次のア～ツについて、あなたが普段の生活の中で現在していることやこれからしたいことがあれば、それぞれの項目ごとに１つ選んで番号に○をつけてください。

省エネルギー

ア　使用していない家電製品のコンセントをぬく
イ　冷蔵庫の適正使用（ドアの開閉時間を短くする、物をつめすぎない）
ウ　テレビをつけっぱなしにしない
エ　冷暖房は適温にする（冬は２０℃、夏は２８℃前後）
オ　省エネタイプの家電製品を使用する
カ　照明器具はLED電球を使う
キ　住宅の保温、断熱化を行う（カーテン、二重窓など）
ク　自家用車の利用を控え、バス・電車・自転車を利用する
ケ　アイドリング・ストップ（自動車の駐停車中のエンジン停止）を行う
コ　低公害車（電気自動車、ハイブリッド自動車、低燃費・低排出ガス車など）を利用する
サ　夏場に家庭内の電気使用を抑えるため、身近な商業施設や公共施設など（クールスポット）に出掛ける

省資源・リサイクル

シ　過剰包装の商品は買わない
ス　買物の際、マイバッグを持参してレジ袋を断る
セ　衣服や家具、家電製品は、修繕・修理して使用する
ソ　ビンやプラスチック容器は、中身だけを詰め替えて使用する
タ　チラシや包装紙などを計算用紙、封筒などにして再使用する
チ　新聞紙、雑誌などを分別してリサイクル業者に出す
ツ　生ごみ処理機を使用する

１ 現在している　　２ これからしたい

【全　県】

● 「現在している」と「これからしたい」を合わせると、１８項目中１０項目で９割を超えている。

◇省エネルギー関連

● 「現在している」ことでは、〔テレビをつけっぱなしにしない〕、〔冷暖房を適温にする〕、〔冷蔵庫の適正使用〕、〔家電製品のコンセントをぬく〕の割合が６割半ば～８割と高く、家庭で日常的に取り組める活動は割合が高くなっている。

● 一方で、新たに費用負担を伴うような〔照明器具はＬＥＤ電球を使う〕、〔低公害車の利用〕は、「現在している」割合は低いが、「これからしたい」とする割合は６割程度と高い。

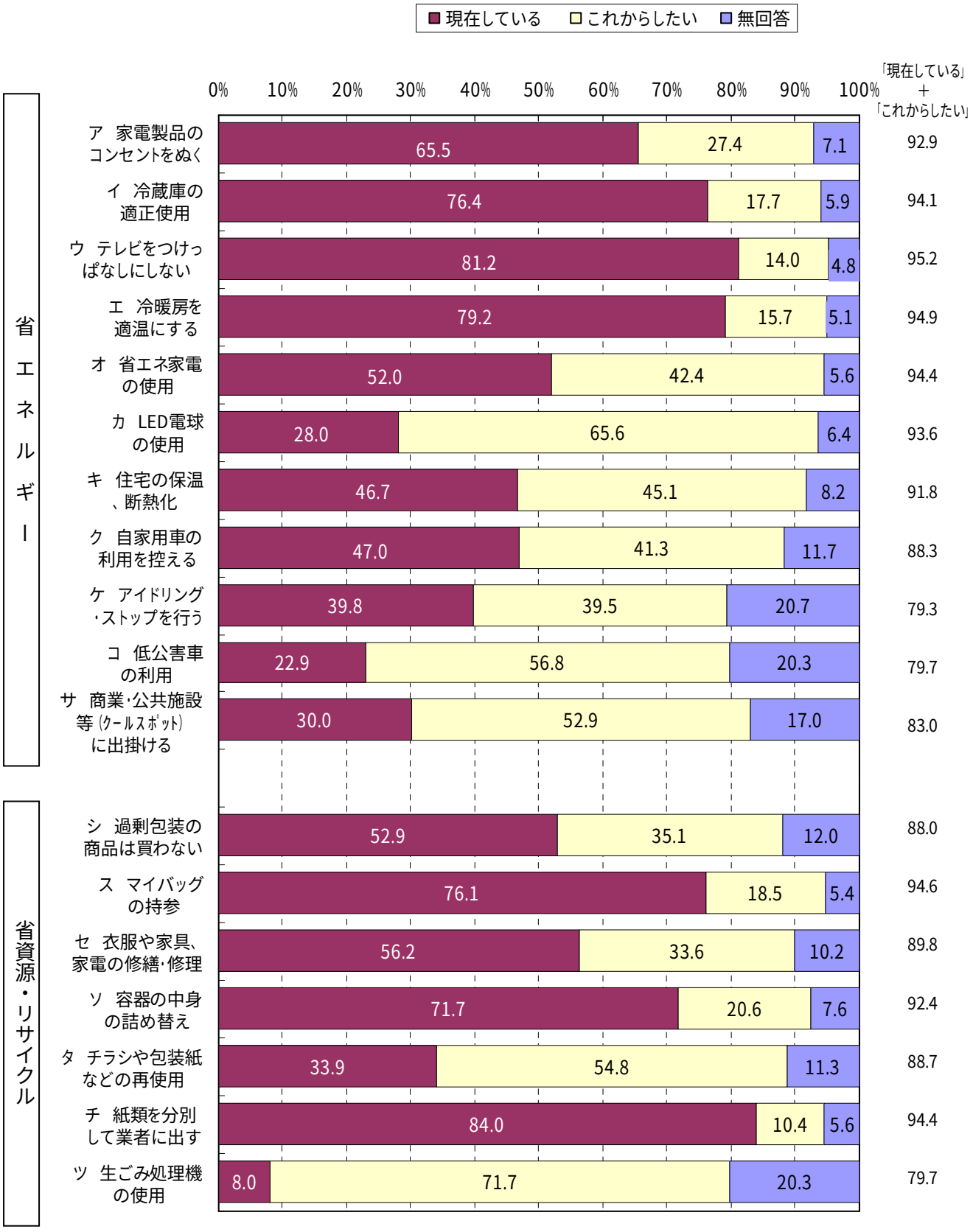
● 夏の節電対策の一環で実施した〔商業施設や公共施設など（クールスポット）に出掛ける〕は、３割の実施であった。

◇省資源・リサイクル関連

● 「現在している」ことでは、〔紙類を分別して業者に出す〕、〔マイバッグの持参〕、〔容器の中身を詰め替えて使用〕の割合が７～８割と高くなっており、普段の生活の中に定着しているといえる。

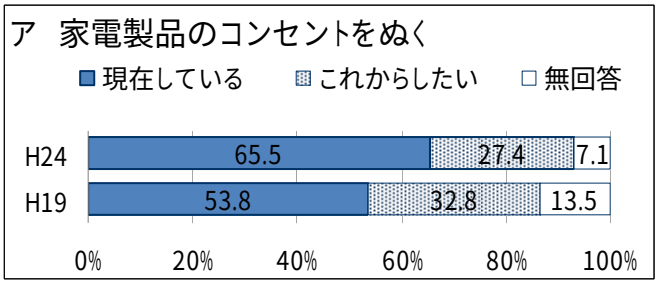
● 一方で、〔生ごみ処理機の使用〕は「現在している」割合では１割に満たないが、「これからしたい」とする割合は７割を超えている。

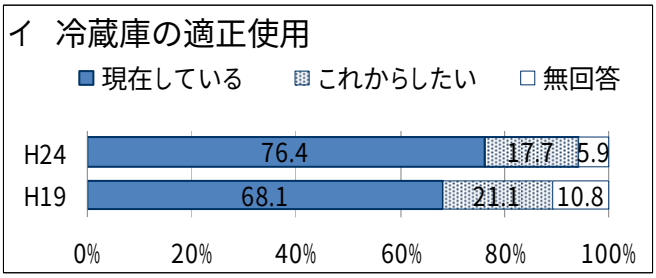
○ 普段の生活の中での省エネルギーや省資源･リサイクル活動

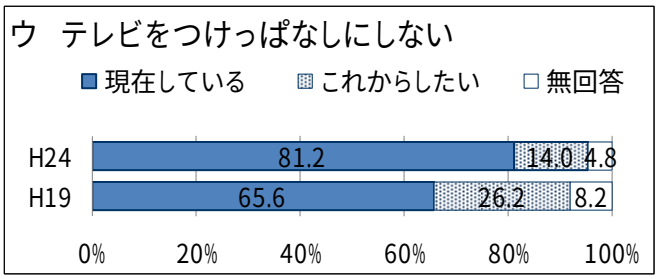


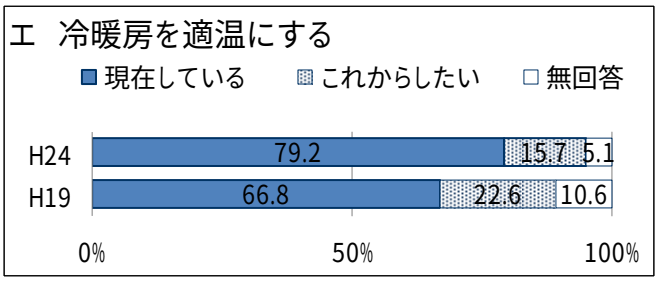
【Ｈ１９調査との比較】（省エネルギー関連）

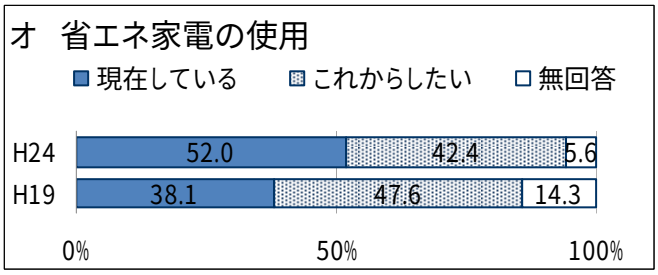
● 「現在している」と回答のあった省エネルギー活動の割合を H19 調査と比較すると、〔アイドリング・ストップを行う〕を除き前回調査を上回っている。

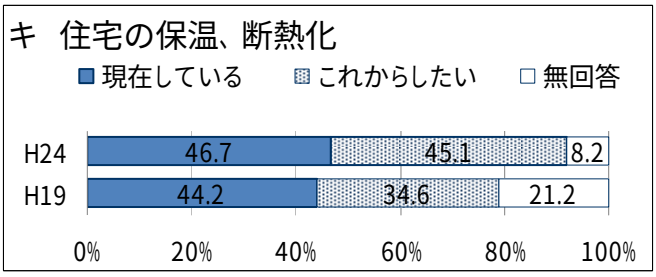


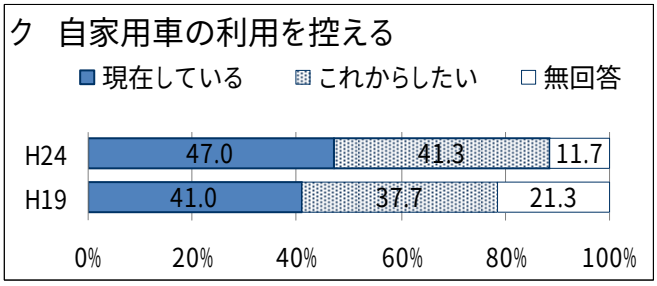


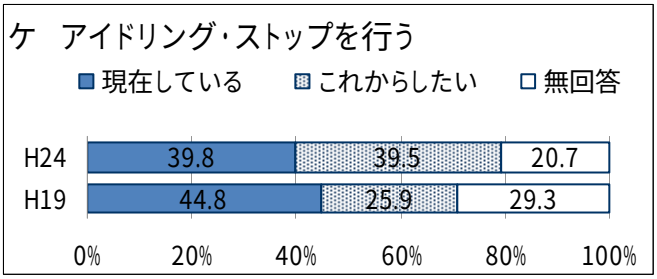


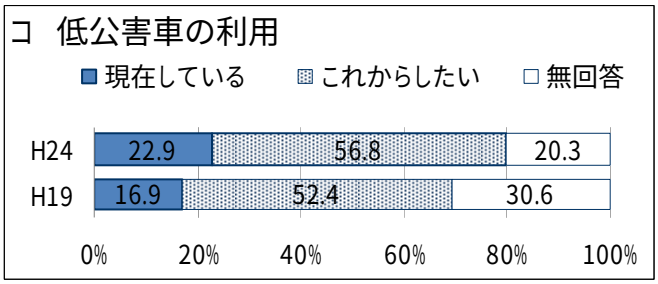








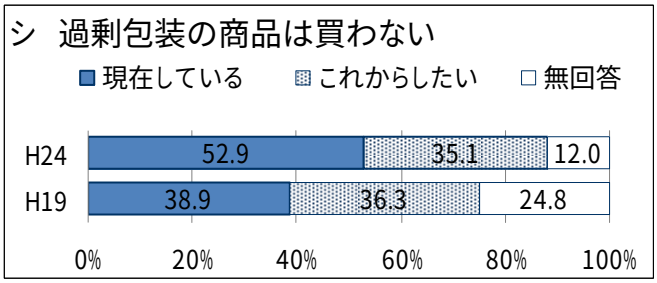


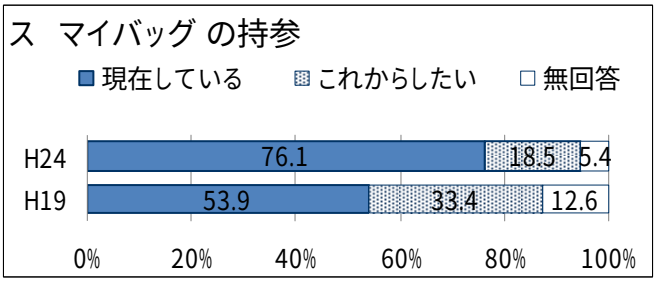


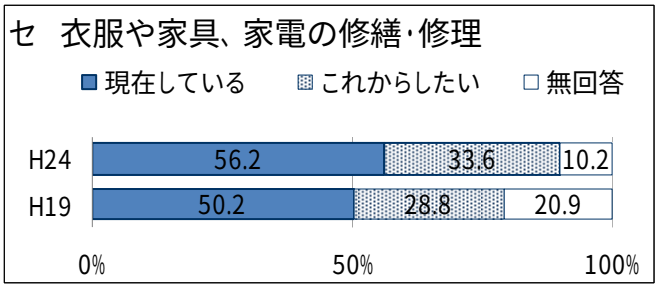
※ 調査項目中「カ 照明器具はＬＥＤ電球を使う」、「サ 商業・公共施設等（ｸｰﾙｽﾎﾟｯﾄ）に出掛ける」は前回の調査で未実施のため記載していない。

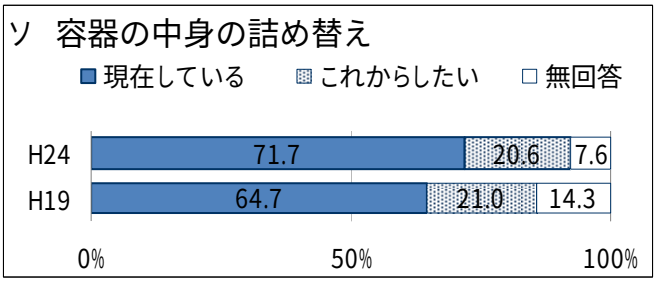
【Ｈ１９調査との比較】（省資源・リサイクル関連）

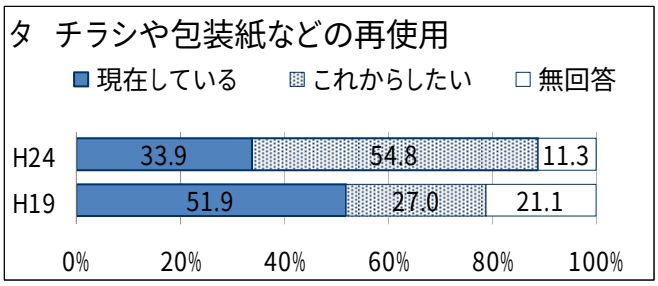
● 「現在している」と回答のあった省資源・リサイクル活動の割合を H19 調査と比較すると、〔チラシや包装紙などの再使用〕を除き前回調査を上回っており、特に〔マイバッグの持参〕では、前回調査と比べて 22.2ﾎﾟｲﾝﾄも増加している。

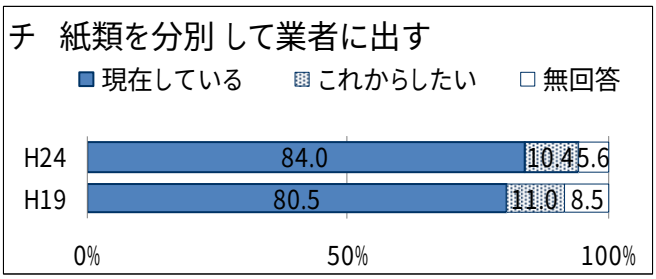


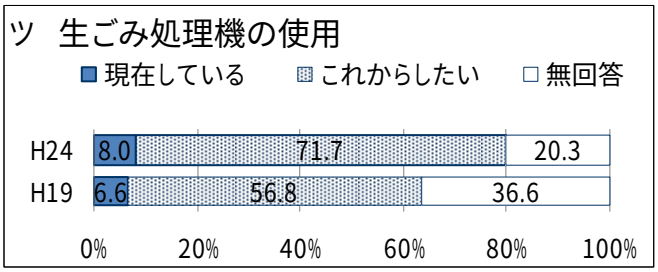












問５　環境学習で重視すること

問５
あなたが環境について学ぶとすれば、どのようなことを重視しますか。次の中から２つまで選んで番号に○をつけてください。

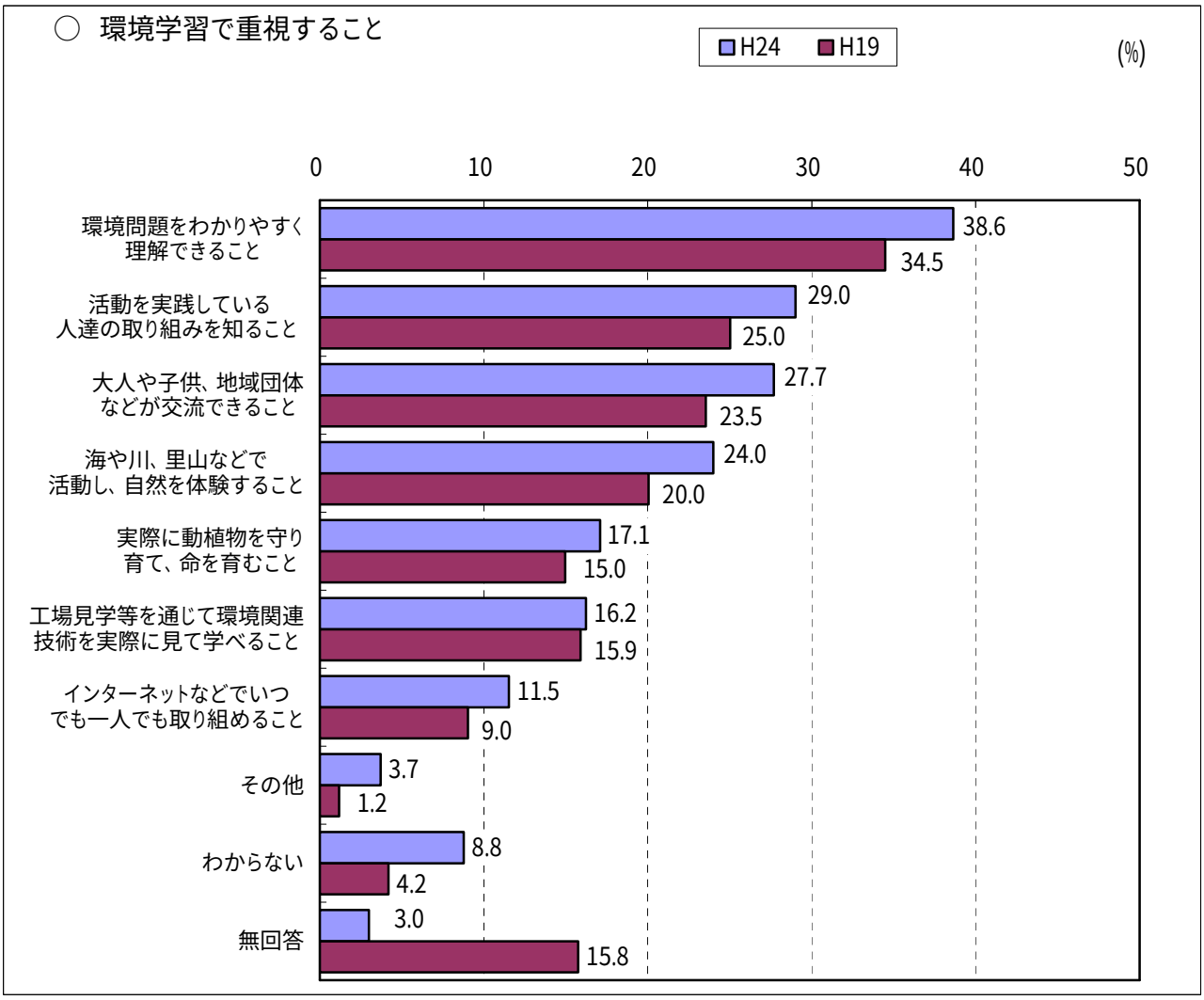
１　環境問題をわかりやすく理解できること
２　工場見学等を通じて、環境関連技術を実際に見て学べること
３　活動を実践している人達の取り組みを知ること
４　インターネットなどでいつでも一人でも取り組めること
５　海や川、里山などで活動し、自然を体験すること
６　実際に動植物を守り育て、命を育むこと
７　大人や子供、地域団体などが交流できること
８　その他
９　わからない

【全　県】

● 「わかりやすく理解できること」が４割弱で最も多く、「活動を実践している人達の取り組みを知る」、「大人や子供、地域団体などが交流できる」が約３割となっている。

【Ｈ１９調査との比較】

● H19 調査と概ね同じ傾向となっている。



問６　県が環境学習を推進する上で特に重要と思われること

問６
県が環境学習を推進する上で、特に重要と思われることはどのようなことですか。次の中から２つまで選んで番号に○をつけてください。

１　情報提供や相談体制の充実
２　学校や幼稚園・保育所における学習機会の充実
３　防災や国際理解なども学習できるプログラムの提供
４　住民やＮＰＯ、学校、事業者、市町などの連携の強化
５　指導者の育成や地域・学校などへのアドバイザー派遣
６　自主的な活動に対する助成や機材提供などの支援
７　学習に取り組める拠点施設の整備
８　その他
９　わからない

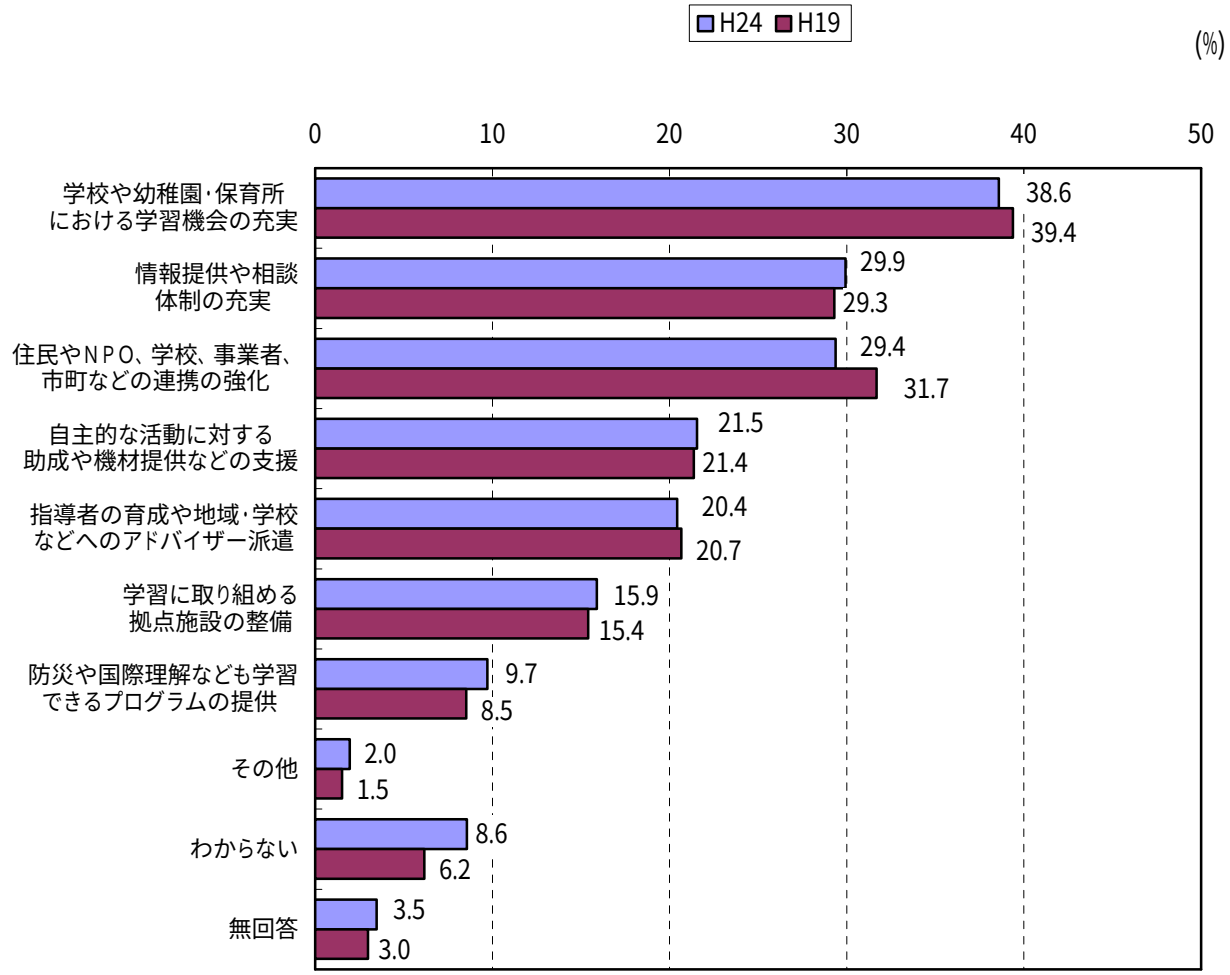
【全　県】

● 「学校や幼稚園・保育所における学習機会の充実」が約４割で最も多く、「情報提供や相談体制の充実」「住民やＮＰＯ、学校、事業者、市町などの連携の強化」が約３割となっている。

【Ｈ１９調査との比較】

● H19 調査と概ね同じ傾向となっている。

○　県が環境学習を推進する上で特に重要なこと



２『再生可能エネルギーの利用』に関することについて

問７　再生可能エネルギーの認知度

問７

次のア～キの再生可能エネルギーについて、あなたはどの程度ご存じですか。それぞれの項目ごとに１つ選んで番号に○をつけてください。

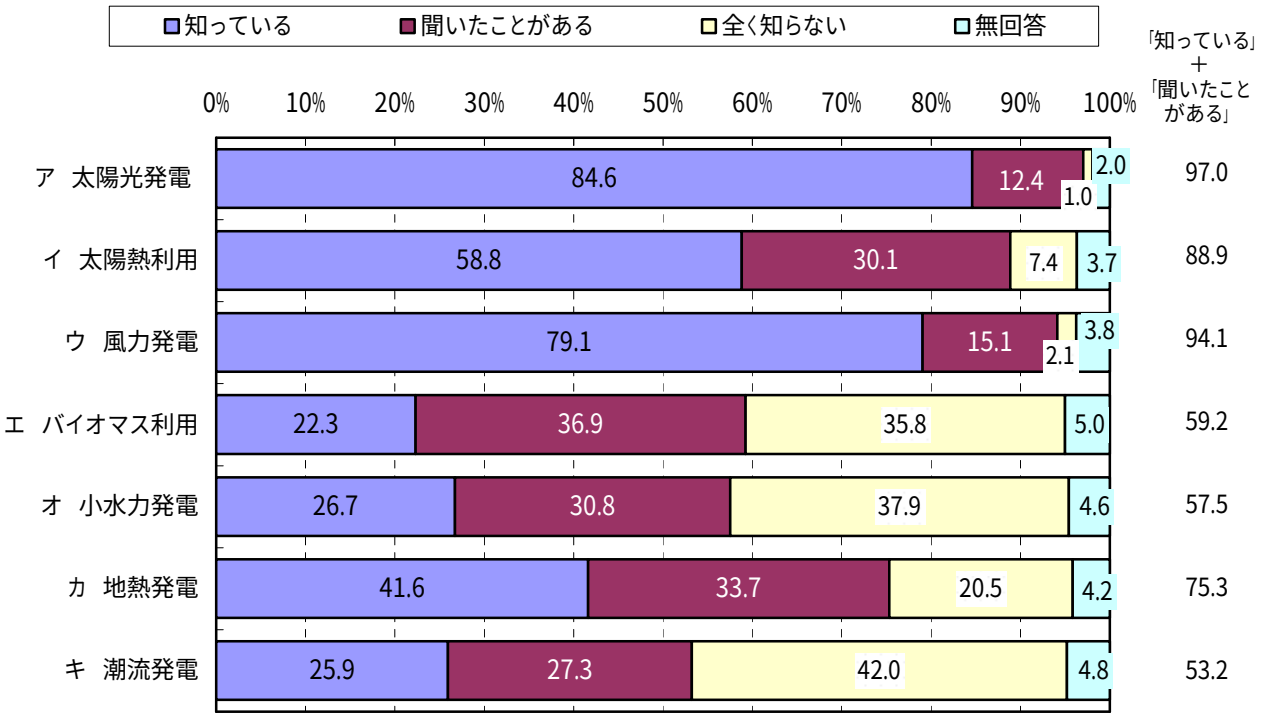
ア　太陽光発電
イ　太陽熱利用
ウ　風力発電
エ　バイオマス利用
オ　小水力発電
カ　地熱発電
キ　潮流発電

１ 知っている　　２ 聞いたことがある　　３ 全く知らない

【全　県】

● 「知っている」と「聞いたことがある」を合わせると、〔太陽光発電〕はほぼ全ての人が認知しており、〔風力発電〕、〔太陽熱利用〕もそれぞれ９割前後の認知度となっている。また、最も少ない〔潮流発電〕でも認知度は５割を超える。

○ 再生可能エネルギーの認知度



問８　家庭や地域における再生可能エネルギー等設備の導入状況

問８
あなたのご家庭や地域で利用している電力や熱源で、再生可能エネルギー等の設備の導入状況についてお伺いします。次のア～クについて、それぞれの項目ごとに１つ選んで番号に○印をつけて下さい。

ア　太陽光発電
イ　太陽熱温水器
ウ　風力発電
エ　バイオマス利用
オ　小水力発電
カ　家庭用燃料電池
キ　ヒートポンプ給湯器
ク　家庭用蓄電池

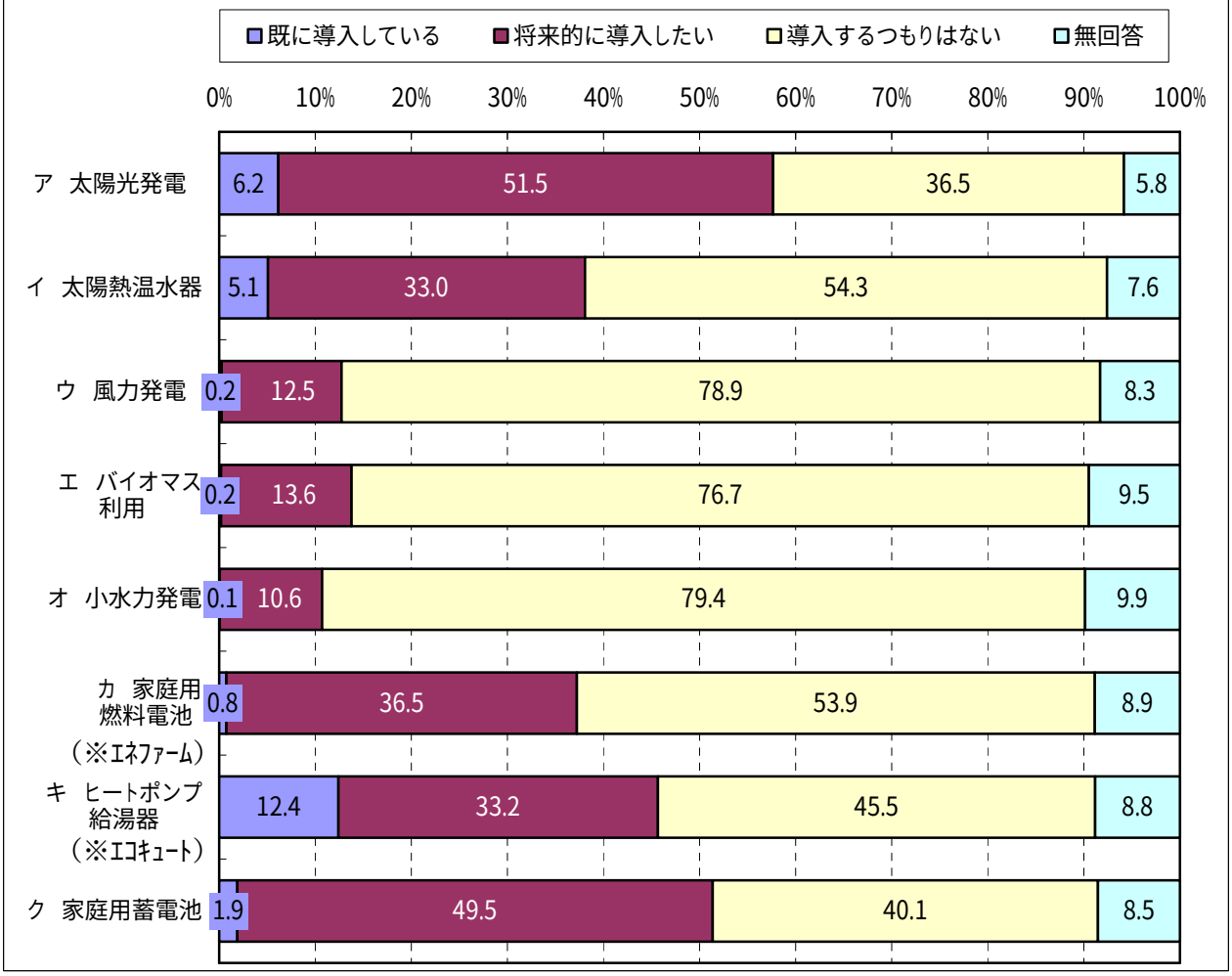
１　既に導入している　　２　将来的に導入したい　　３　導入するつもりはない

【全　県】

● 「既に導入している」再生可能エネルギー等設備は、〔ヒートポンプ給湯器〕が最も多く、次いで〔太陽光発電〕、〔太陽熱温水器〕となっている。

● 「将来的に導入したい」とする設備では、〔太陽光発電〕が最も多く、次いで、〔家庭用蓄電池〕、〔家庭用燃料電池〕、〔ヒートポンプ給湯器〕、〔太陽熱温水器〕となっている。

○　家庭や地域における再生可能エネルギー等設備の導入状況



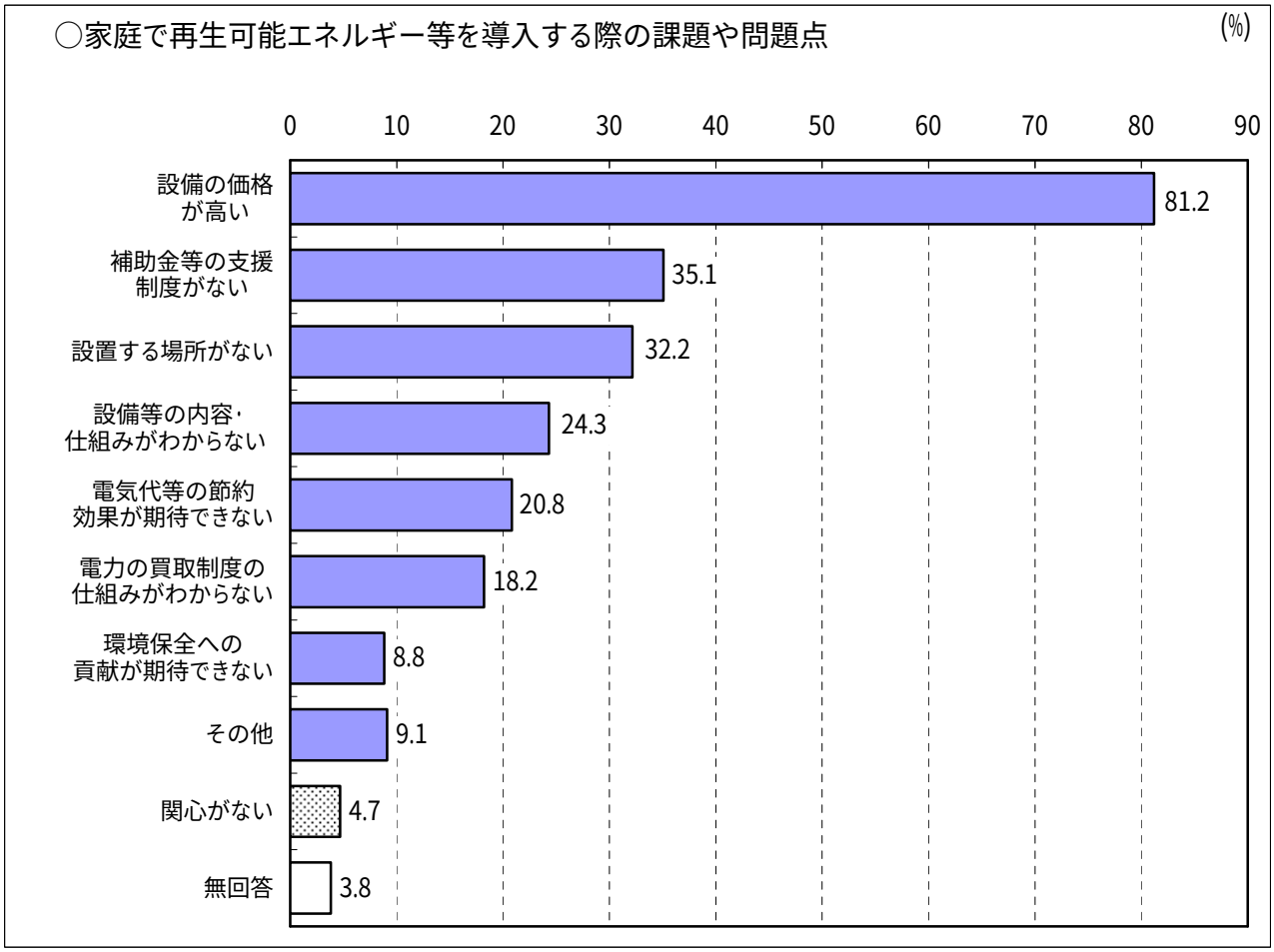
問９　家庭で再生可能エネルギー等を導入する際の課題や問題点

問９
あなたのご家庭で再生可能エネルギー等を導入する際の課題や問題点はどのようなことだと思いますか。次の中から３つまで選んで番号に○をつけてください。

1　設備の価格が高い
2　補助金等の支援制度がない
3　設備等の内容・仕組みがわからない
4　電力の買取制度の仕組みがわからない
5　環境保全への貢献が期待できない
6　電気代等の節約効果が期待できない
7　設置する場所がない
8　その他
9　関心がない

【全　県】

●　「設備の価格が高い」が８割を超え、突出して多くなっている。次いで「補助金等の支援制度がない」「設置する場所がない」が３割台となっている。



問１０　再生可能エネルギーを普及させるための経済的負担

問１０
今後、再生可能エネルギー等を普及させるためのコストを、消費者が負担することとした場合、ご家庭の電気料金のうち、月額あたり何割までなら負担が増えてもよいと思われますか。次の中から１つ選んで○をつけてください。

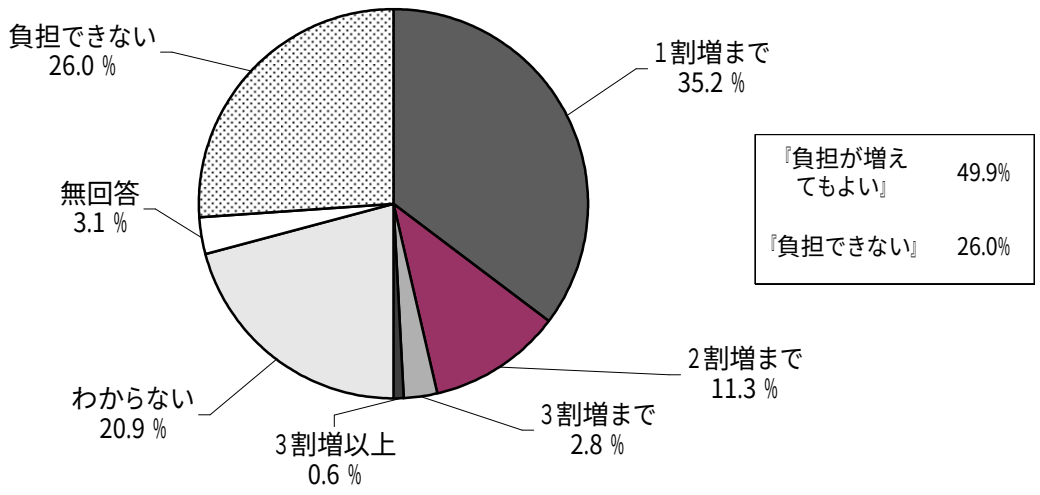
１	１割増まで	４	３割増以上
２	２割増まで	５	わからない
３	３割増まで	６	負担できない

【全　県】

● 再生可能エネルギー等の普及のため、約半数の人が電気料金の『負担が増えてもよい』とする一方、約１／４の人が『負担できない』としている。

● 電気料金月額あたり「１割増まで」負担してもよいとする割合が最も高くなっている。

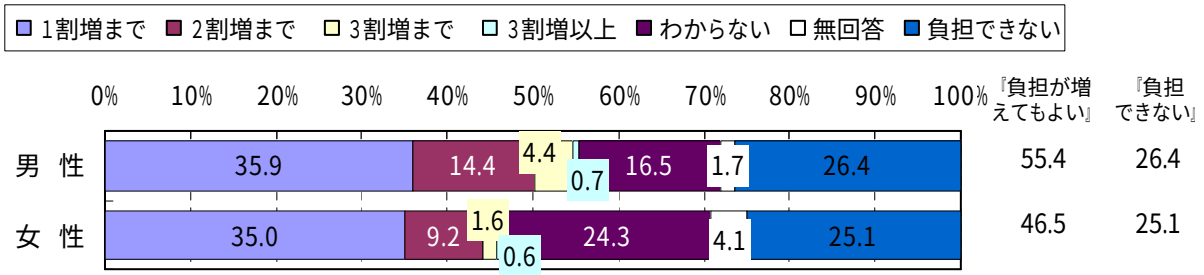
○ 再生可能エネルギーを普及させるための経済的負担



【性別】

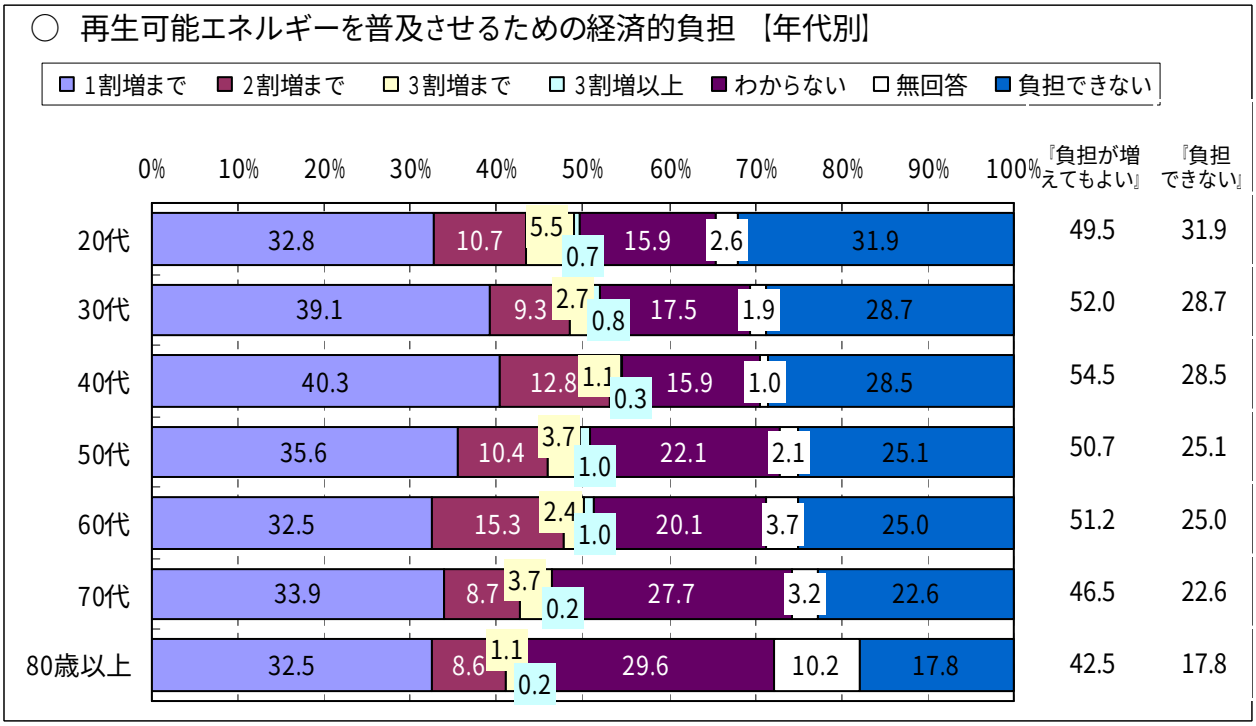
● 性別では、『負担が増えてもよい』と考える割合は男性が多く、女性を 8.9 ﾎﾟｲﾝﾄ上回っている。

○ 再生可エネルギーを普及させるための経済的負担 【性別】



【年代別】

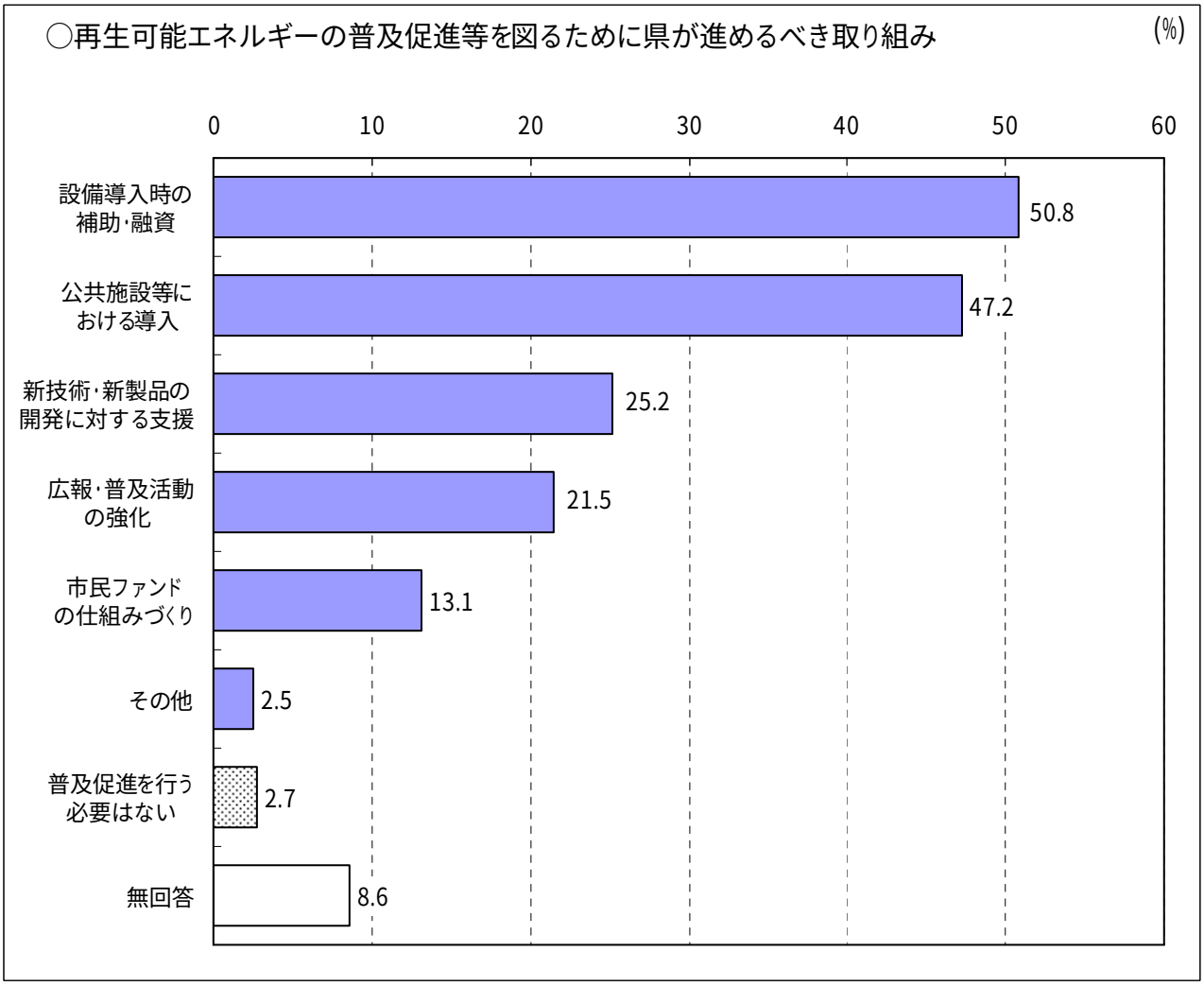
● 年代別では、『負担が増えてもよい』と考える割合は 40 代が最も高く、30 代、60 代、50 代で５割りを上回っている。



問１１　再生可能エネルギーの普及促進等を図るために県が進めるべき取り組み

問１１
再生可能エネルギーの普及促進、蓄電池等の利用によるエネルギーの効率化を図るため、県としてどのような取り組みを進めるべきだと思われますか。次の中から２つまで選んで○をつけてください。

1　再生可能エネルギー等に関する設備導入時の補助・融資
2　公共施設等における再生可能エネルギー等の導入
3　再生可能エネルギー等についての広報・普及活動の強化
4　新技術・新製品の開発に対する支援
5　太陽光発電等へ出資する市民ファンド（発電事業に地域住民自らが出資）の仕組みづくり
6　その他
7　再生可能エネルギー等の普及促進を行う必要はない

【全　県】

● 「設備導入時の補助・融資」が最も多く、次いで「公共施設等における導入」、「新技術・新製品の開発に対する支援」となっている。